

狛江市

防災ガイド

わが家の防災メモ

避難する場所や連絡先などを書き出しておきましょう。携帯電話が使用できなくなっても安心です。また、メモ欄に持病や処方薬、アレルギーなどについて書いておくと、救急医療の際に役立ちます。

地震の時に行く避難所
風水害の時に行く避難所
安全な場所にある親戚・知人宅など

家族の連絡先など				
名前	電話	メール	血液	型
名前	電話	メール	血液	型
名前	電話	メール	血液	型
名前	電話	メール	血液	型
名前	電話	メール	血液	型

緊急時連絡先(親戚・知人など)		
名前	電話	メール
名前	電話	メール
名前	電話	メール

メモ

発行年月 令和8年3月

発行 狛江市

総務部安心安全課 電話 03-3430-1111 (代)

地図調製・印刷 (株) 中央ジオマチックス

狛江市の自然災害について

狛江市で想定される災害 P2

備えと準備

自助・共助の重要性 P4
 わが家の災害対策 P6
 物の備え P8
 家の備え P10
 ペットに関する備え P11
 配慮が必要な方への支援 P12
 安否の確認方法 P13
 帰宅困難対策 P14
 正しい情報を手に入れる P15

地震

地震から身を守る P16

風水害

風水害の情報収集 P18
 風水害から身を守る P20
 台風から身を守る P22
 土砂災害から身を守る P24

国民保護

テロや武力攻撃等への備え P25

避難生活

避難所での共同生活 P26

生活再建

生活再建に向けて P28

ハザードマップ

狛江市防災マップ P30
 狛江市洪水ハザードマップ P32
 多摩川氾濫版
 狛江市洪水ハザードマップ P34
 野川・入間川氾濫版
 浸水継続時間マップ P36
 多摩川氾濫版
 浸水継続時間マップ P37
 野川・入間川氾濫版
 狛江市内水ハザードマップ P38

Web版狛江市防災マップ、
洪水・内水ハザードマップ



狛江市の自然災害について

狛江市で想定される災害

災害対策の基本は、災害リスクと対応策を適切に把握することです。

地震災害(首都直下地震)

東京都が令和4年5月に公表した「首都直下地震等による東京の被害想定」では、市内に最大震度6強の揺れが発生し、家屋の倒壊や火災により多くの人的・物的被害の発生が想定されるほか、ライフラインの寸断も発生するとされています。

狛江市地域防災計画では、都の想定のうち、特に被害が大きいとされる多摩東部直下地震と都心南部直下地震を想定しています。



● 狛江市の被害想定

火気器具などの利用が最も多いと考えられる冬の18時、風速8m/秒での被害想定は以下のようになります。

被害区分		多摩東部直下地震	都心南部直下地震
建物	ゆれ・液状化による全壊	287棟	125棟
	火災による焼失棟数(倒壊建物含まず)	1,649棟	1,209棟
人的	死者	42人	29人
	負傷者	418人	247人
ライフライン	電力停電率	13.2%	9.4%
	通信不通率	9.9%	7.6%
	上水道断水率	25.0%	12.2%
	下水道管きよ被害率	4.1%	2.4%
	ガス供給停止率	0.0%	0.0%
その他	帰宅困難者	3,978人	3,978人
	避難者数(合計)	18,290人	11,541人
	避難所避難者数	12,194人	7,694人
	要配慮者死者	39人	27人

【出典】首都直下地震等による東京の被害想定報告書(東京都防災会議)令和4年5月25日公表

多摩東部直下地震 都心南部直下地震

マグニチュード7.3の地震で狛江市では最大震度6強の揺れが想定されている。

【震度6強の揺れとは】

- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。
- 耐震性の低い木造住宅は、傾くものや、倒れるものが多くなる。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。

●生活が復旧するまでの見通し

大地震が発生すると、ライフラインが被害を受け、電気・ガス・水道・下水道などが当面の間使えないおそれがあります。東京都では、各々のライフラインの機能を回復させるのに要する日数を右のように想定しています。



【出典】首都直下地震等による東京の被害想定報告書(東京都防災会議)令和4年5月25日公表

●地域危険度

東京都は、おおむね5年毎に、地震に関する地域の危険性を地域危険度として測定し、公表しています。

地域危険度測定調査では、以下の危険性について町丁目ごとに測定し、5段階の相対評価としています。

総合危険度のランク分け



【出典】東京危険度マップ 2022年度版(東京都都市整備局)

- 建物倒壊危険度
- 火災危険度
- 総合危険度

風水害

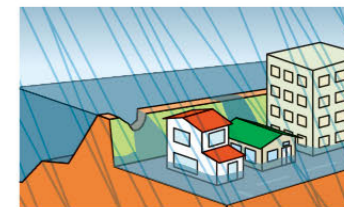
狛江市は北に野川、南に多摩川と河川に挟まれているため、台風などによる豪雨が発生した際には、河川の増水に伴う洪水被害の発生が想定されます。また、内水氾濫による住宅への浸水被害も想定されます。

多摩川決壊の碑
昭和49年(1974年)の台風第16号による多摩川の堤防決壊の記憶を後世に伝えるため、左岸河川敷に建立されました。



●外水氾濫

外水氾濫とは、増水した河川から水が溢れた際に起こる現象です。わずかな時間で住宅などへ浸水して被害を発生させます。また、大量の泥や流木などが一緒に流れてくるため、復旧に時間がかかります。



【過去の災害】昭和49年の多摩川堤防決壊

昭和49年(1974年)9月、台風第16号の大雨により多摩川の堤防が決壊し、民家19棟が流失するという大水害が発生しました。



●内水氾濫

内水氾濫とは、雨量が下水道管などの排水施設の能力を超えるときや、河川などの排水先の水位が高くなったときに、雨水を排水できなくなり、浸水する現象です。



【過去の災害】令和元年東日本台風による内水氾濫被害

東日本の広域に甚大な被害をもたらした令和元年東日本台風(台風第19号)は、狛江市では人的な被害はなかったものの、多くの住宅浸水被害が発生しました。



●土砂災害

普段は安全な場所でも、台風などの大雨、長時間の降雨による地盤のゆるみ、地震などの影響で土砂災害が発生するおそれがあります。狛江市内では、「東野川四丁目30番の一部地域(調布市境)」が土砂災害発生のおそれのある「土砂災害警戒区域」に指定されています(P24参照)。

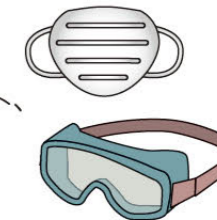


火山

令和7年3月に内閣府が公表した「首都圏における広域降灰対策検討会 報告書」では、富士山が噴火した場合、狛江市において3cm以上の降灰が想定されています。

●備蓄品

降灰で物流やライフラインに影響が出る可能性があります。地震などの備蓄に加えて、ヘルメット、防じんマスク、防じんゴーグルなどを備えておきましょう。



●火山灰に注意

噴火時に降る火山灰を吸い込んでしまうと、呼吸器や目のかゆみなどを引き起こすため、防じんマスクなどで保護します。防じんマスクがない場合は、タオルを口に当てるなど火山灰を吸い込まないようにしましょう。また、火山灰によるスリップ事故や交通障害などが発生する危険性があるので気を付けましょう。

自助・共助の重要性

災害から命を守るには、自分の命は自分で守る「自助」、地域で助け合う「共助」が大切です。

自助・共助・公助

大規模な災害が発生した際には、全ての現場に公的機関が迅速に救助に駆けつけることは困難です。過去の災害の教訓からも、被災したらまず自分で自分の生命を守り(自助)、その後地域の人たちと助け合いながら被害を軽減し(共助)、3日間は自分たちで生き抜き、行政機関・消防・警察などの支援(公助)を待つことが望ましいです。

自助

自分(家族)の命・身体を自分で守る



- 地域の災害リスクについて知る
- 耐震化、家具転倒防止を行う
- 防災知識を身に付ける
- 必要な備蓄品を備える

ご近所付き合いを大切に
大災害では地域の助け合いが重要です。普段からご近所付き合いを大切にしましょう。

協力・補完連携



家族で話し合しましょう
普段から災害時のお互いの連絡方法や避難場所、備蓄品などについて確認しておきましょう。また、避難経路は実際に歩いて確認しておきましょう。

共助

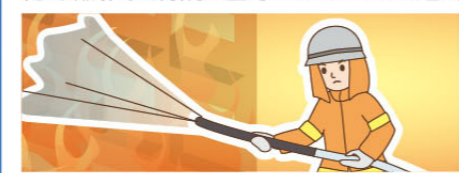
地域コミュニティでお互いが助け合う



- | | |
|---------------|-----------------|
| 地域の役割 | 事業所の役割 |
| ● 地域防災活動の推進 | ● 地域との助け合い |
| ● 協力して消火・救出活動 | ● 顧客・従業員などの安全確保 |

公助

行政機関、消防、警察などによる活動



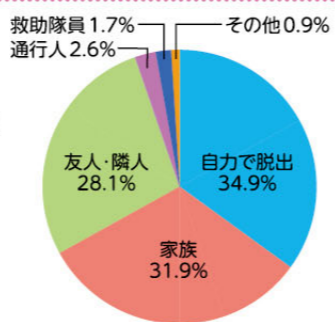
- 防災マップなどの作成
- 被害想定・被害軽減策の検討・実施
- 地域防災体制の仕組みづくり
- 災害復旧への取り組み
- 自助、共助への支援

防災ポイント 阪神・淡路大震災の教訓 <困難な救出>

平成7年(1995年)阪神・淡路大震災では、住民同士の助け合いによらなければ多くの要救助者を助け出すことができない状況でした。神戸市の全半壊家屋の数を救助隊員数で割ると、隊員1人あたり67棟もの多くの災害現場に対応する必要がありました。救助活動がいかに困難を極めたか、この数値だけでもうかがえます。

阪神・淡路大震災における生き埋めや閉じ込められた際の救助主体等

出典：(社)日本火災学会(1996)「1995年兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」



災害時に力を発揮する地域の防災活動 <共助>

大規模な自然災害が発生すると、多くの人が救助や救護を必要とすることから救助隊員の人数が足りず、全ての現場に駆けつけることは現実的に困難です。そのため、災害発生初期段階では、地域の人たちの助け合い<共助>が大変重要になります。

● 狛江市消防団

消防団は、「自らのまちは自らで守る」という精神に基づき、地域住民で構成されたまちの安心・安全を守る組織です。団員は各々の仕事に就いていますが、市内で火災や水害などの災害が発生すれば、昼夜を問わず現場に駆けつけ、災害活動に従事しています。

また、災害活動の他に、定期的に訓練や資機材点検を行うとともに、市民を対象とした救命講習の講師など、地域の防災リーダーとして活躍しています。



訓練風景



狛江市消防団 PR動画



● 狛江市自主防災組織

狛江市防災会

防災会は、日頃から地域での災害対策に関する活動を行うことで、災害時には地域の中心となって活動する団体です。市内全域に支部があり、支部ごとに防災訓練を行ったり、講習会を開催しています。

地域で行っている防災活動に参加してみましょう。近所の人と顔見知りになるだけでも、災害時には大きな安心が得られるはずです。



地域で行う防災訓練の様子

避難所運営協議会

避難所運営協議会は、災害時に避難所の開設、運営などを中心となって担う地域住民の団体です。避難所の運営は避難者自ら行います。

平常時には、避難所運営の際の役割決めや、避難所運営訓練を実施しています。

避難所となる全ての小中学校(10箇所)の他、西和泉体育館、上和泉地域センターの全12箇所に避難所運営協議会が設置されています。

避難所での生活は、誰もが不安でいっぱいです。そんな中、しっかりと運営基盤があることで、混乱を少しでも抑えられます。いざという時のために、日頃から防災活動に取り組んでみましょう。



避難所運営訓練の様子

自主防災組織に入りませんか?

災害から身を守るためには、「自分たちのまちは自分たちで守る」といった共助の力が不可欠です。

自主防災組織に入るのに、特別な資格などは一切いりません。いざという時の備えとして、自主防災組織に入ってみませんか? 少しでも興味がある方は、安心安全課までご連絡ください。

わが家の災害対策

個々の事情により必要な備えは異なります。自分に合った対策を検討しましょう。

わが家の災害対策<自助>について考えましょう

お住まいの地域や家族構成など、人によって事情や災害リスクは様々であり、必要な備えは異なります。家族で話し合っ、自分たちの事情に合った災害対策を考えましょう。

考えた災害対策は、家族構成の変化や引越しなど、状況が変わったら再検討しましょう。

災害対策の流れ

- 1 地震や風水害時に、自宅や家族、地域にどのような危険性があるかを把握する。
- 2 自分の危険性に応じて必要となる備えを検討する。
- 3 対策をすぐに実践する。
- 4 状況が変化したら、対策を再検討する。

地震による危険性を把握しましょう

□ 自宅の安全性は確認できますか？(築年数・構造物など)

- 昭和56年(1981年)6月1日より前の耐震基準で建てられた古い木造家屋は、震度6弱以上の地震で倒壊する危険性があります。
- 狛江市の助成制度(P11参照)などを利用して、耐震補強など建物の備えを実践しましょう。



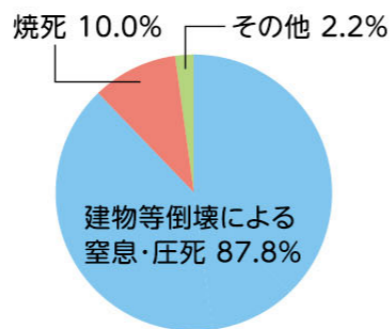
□ 狛江市防災マップ(P30)を確認しましょう

- 最寄りの指定避難所はどこですか？ → 満員だった場合、他の避難所へ移動する必要があります。徒歩圏内の複数の避難所を確認しておきましょう。

狛防ポイント 阪神・淡路大震災の教訓 <亡くなった原因>

平成7年(1995年)に発生した阪神・淡路大震災では、地震発生直後に5,000人以上の人命が奪われました。その犠牲者の9割近くが、建物の倒壊による「窒息・圧死」が原因で亡くなりました。

生命や財産を守るためには、建物の耐震化が重要です。家屋の耐震性強化と家具の転倒・落下・移動防止で守れる生命があります。建ててから年月が経過した住宅などは、積極的に耐震診断を受けて、危険箇所があれば早めに耐震改修をしておきましょう。



耐震化の詳細や、家具の転倒・落下・移動防止の方法についてはP10・P11参照

【出典】平成7年警察白書(警察庁)

風水害による危険性を把握しましょう

□ 狛江市洪水ハザードマップ 多摩川氾濫版(P32) 狛江市洪水ハザードマップ 野川・入間川氾濫版(P34)を確認しましょう

- 浸水想定区域に入っていますか？
 - どの程度浸水しますか？
 - 浸水の継続時間はどれくらいですか？
 - 指定避難所はどこですか？
- 避難の方法を検討しましょう(P20参照)。
- 最寄りの指定避難所が、風水害時に対応していない場合があります。確認しておきましょう。

□ 狛江市内水ハザードマップ(P38)を確認しましょう

- * 家屋の台風対策(暴風・浸水対策)→P23参照

災害による危険性を把握しましょう

はじめに、自宅や地域の災害の危険性を把握しましょう。危険性がわかったら、その対策を検討しましょう。

□ 家族構成などに応じた危険性を把握していますか？

- 乳幼児や高齢者、アレルギーの方など、災害時に配慮が必要な方が家族にいる場合やペットを飼っている方は、必要な備えを準備しておきましょう。
- * 非常持ち出し品の準備→P8参照
- * ペットの災害対策→P11参照
- * 備蓄品の準備→P9参照



□ 外出時に被災した場合、どうすればよいか話し合っていますか？

- 日中など、家族が離れ離れになっているときに災害が発生した場合、連絡を取り合うことができないことを想定し、事前に行動を決めておきましょう。
- * 安否の確認方法→P13参照
- * 帰宅困難対策→P14参照



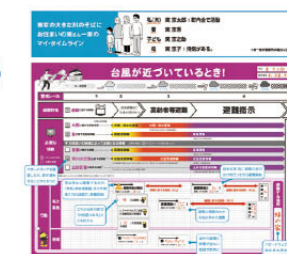
狛防ポイント マイ・タイムラインを作成しましょう

マイ・タイムラインは、いざという時に慌てることがないように、避難に備えた行動を一人ひとりがあらかじめ決めておくものです。台風などは事前に予測できるので、風水害が発生する前に家族で話し合っ、マイ・タイムラインを作ってみましょう。

東京マイ・タイムラインを利用しましょう

東京都防災ホームページに、マイ・タイムラインの作り方がわかりやすく紹介されています。タイムラインシートのダウンロードや、必要事項を入力すると自動作成するツールも用意されています。

冊子版は、安心安全課で配布しています。



東京都防災ホームページ

物の備え

避難する時に持ち出す「非常持ち出し品」と、できるだけ普段に近い生活をするための「備蓄品」を用意しましょう。

非常持ち出し品の準備

非常時に持ち出すべきものをあらかじめリュックサックに詰めておき、いつでもすぐに持ち出せるようにしておきましょう。

また、市が備蓄している食料や毛布は、避難所に避難しやすく配布されるとは限りません。避難する際には、各自で準備した非常持ち出し品を持参してください。



水・食料

- 飲料水(ペットボトル)
- 食料品
(加熱やお湯が不要なもの)



風水害など避難するまでに時間がある場合は、おにぎりなどの簡単なお弁当を持参してもよいでしょう。

貴重品

- 預金通帳
- 印鑑
- 現金
- マイナンバーカード
(健康保険資格確認書)

道具など

- 懐中電灯
- 携帯ラジオ
- 予備電池
- モバイルバッテリー・手回し充電器
- 給水袋

衣類など

- 防寒着
- 下着
- ブランケット
- タオル
- 上履き、スリッパ

安全対策

- ヘルメット
- 防災ずきん
- 軍手

衛生用品・感染症対策

- 救急用品(ばんそうこう、包帯、消毒液、常備薬など)
- 体温計
- アルコール消毒液
- マスク
- 生理用品
- 洗面用具
- 歯ブラシ
- 使い捨てカイロ
- ウェットティッシュ
- 携帯トイレ
- 服用しているお薬
- お薬手帳
- ごみ袋
- 予備の眼鏡
- 使い捨てコンタクトレンズ

小さなお子さんがある方

- 粉ミルク
- 液体ミルク
- 哺乳瓶
- 紙おむつ
- 離乳食
- おしりふき
- 母子手帳
- おもちゃ



高齢や持病がある方

- 常用薬
- 介護用品
- 大人用紙おむつ
- 補聴器
- 入れ歯
- 障害者手帳
- ストーマ用装具



他に必要な物や、普段使用していてリュックサックに入れておけない物を書き出しておきましょう。

※ペットを飼っている人は「ペット用の非常持ち出し品」(P11)を確認しましょう。

猫防ポイント こまえアレルギー缶バッジ

「こまえアレルギー缶バッジ」は、自分で「アレルギーがあること」を伝えることが難しい、乳幼児や小学生などが缶バッジをつけることで、アレルギー疾患があることを周知するためのアイテムです。

缶バッジは、安心安全課の窓口のほか、指定避難所の開設時に受付で無料提供します。なお、アレルギーがある方にバッジの着用を強制するものではありません。

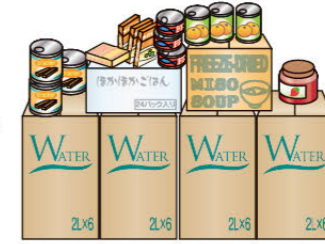


備蓄品の準備

1週間分の備蓄品を用意しましょう！

大規模災害時は、長期間の停電や断水の他、物流が途絶え、普段と同じ生活を送ることが困難になります。また、市外から救援物資などが届くまで、時間がかかることがあります。その期間を無事に暮らせるよう備蓄を進めましょう。

備蓄する食料品については、農林水産省の「家庭備蓄ポータル」も参考にしましょう。



1年に1回は備蓄品の点検をして、期限切れを防ぎましょう。電池などもローリングストックの対象品目です。



家庭備蓄ポータル

水(飲料水・生活用水)

飲料水

備蓄しておく飲料水の量 =
1日1人3リットル×人数分×7日分

- 生活用水(飲料水とは別)。水道水を入れたポリタンクを用意する、お風呂の水をいつも張っておく、など。

食料

- ご飯
- ビスケット・板チョコ
- 乾パン
- 野菜ジュース



生活用品

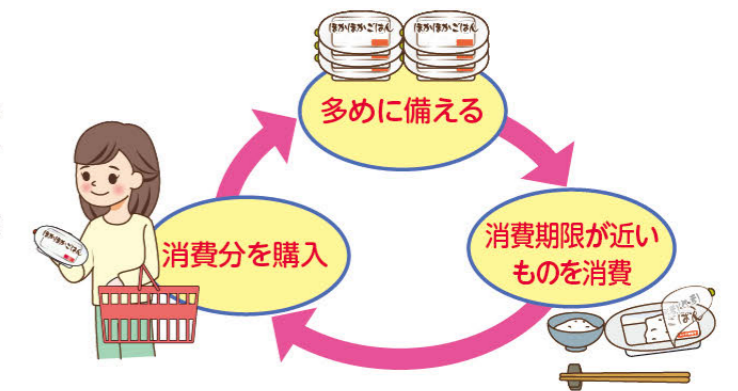
- トイレトペーパー
- ティッシュペーパー
- LED ランタン
- モバイルバッテリー
- ラジオ
- カセットコンロ・ボンベ
- 懐中電灯
- 乾電池
- ガムテープ
- 養生テープ
- 紙皿・紙コップ・割り箸
- 食品用ラップ
- ビニール手袋
- 缶切り・万能ナイフ
- ポリタンク
- ドライシャンプー
- 歯ブラシ・口腔ケア用品
- 衣類(季節に応じたもの)
- 毛布
- タオル
- バケツ
- 携帯トイレ



ローリングストックによる日常備蓄

ローリングストックは、普段の生活に必要なものを多めに買い、古いものを消費したら買い足して、常に在庫をキープする備蓄方法です。

食料のローリングストックでは、災害時でも普段から食べ慣れているものを食べられるメリットがあります。



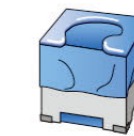
携帯トイレの準備

大規模災害時は、停電によるポンプの停止や断水により、トイレの水が流せなくなる危険性があります。また、お風呂の残り湯などでトイレを流すと、排水管などに損傷があった場合に、階下で汚水が溢れるおそれがあります。

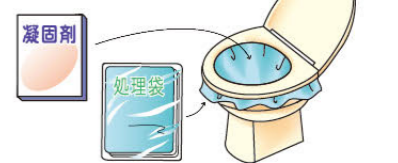
災害時は、設備の安全が確認できるまで、携帯トイレを使用しましょう。

備蓄しておく携帯トイレの個数 =
1日のトイレの回数(平均5回)×人数分×7日分

組み立てるタイプ



便座を利用するタイプ



携帯トイレにも使用期限があります。1年に1回は点検をして、期限切れを防ぎましょう。

電源としての自動車の活用

大規模災害によりライフラインが停止した際も、自動車は電源の確保やカーラジオなどを用いた情報収集の手段として利用できます。

自動車のできること

- 自動車のエンジンをかけて電源の確保
- カーラジオやテレビを用いて情報収集
- 冷暖房も利用できる個室
- 自宅に電力供給(電気自動車)

災害時に自動車を活用するための日頃の備え

- 燃料・充電は半分になったらすぐに満タンにする。
- 安全な場所に駐車する(移動は安全なタイミングで)。
- 定期的にエンジンをかけ、日常的な点検を行う。

車での避難は、緊急自動車の通行の妨げになったり、渋滞や事故に巻き込まれて逃げ遅れる危険があります。震災時や洪水時は車での避難はしないでください。

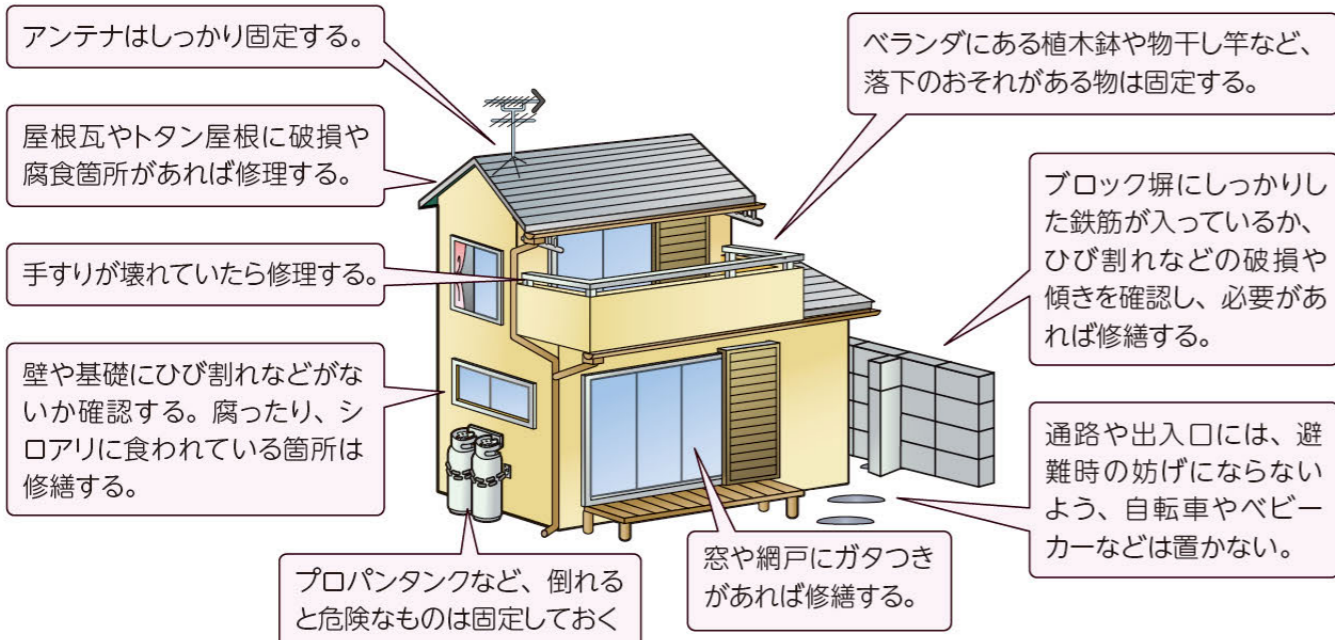
備えと準備

家の備え

災害から身を守るため、また災害後に継続して自宅で生活するために自宅の安全性を確保しましょう。

家屋の備え

●屋外



家屋の風水害対策

●側溝や雨水ますの清掃

道路沿いの「側溝」や「雨水ます」の上にゴミや落葉がないようにする(側溝や雨水ますが詰まると、道路冠水や浸水の原因になる)。

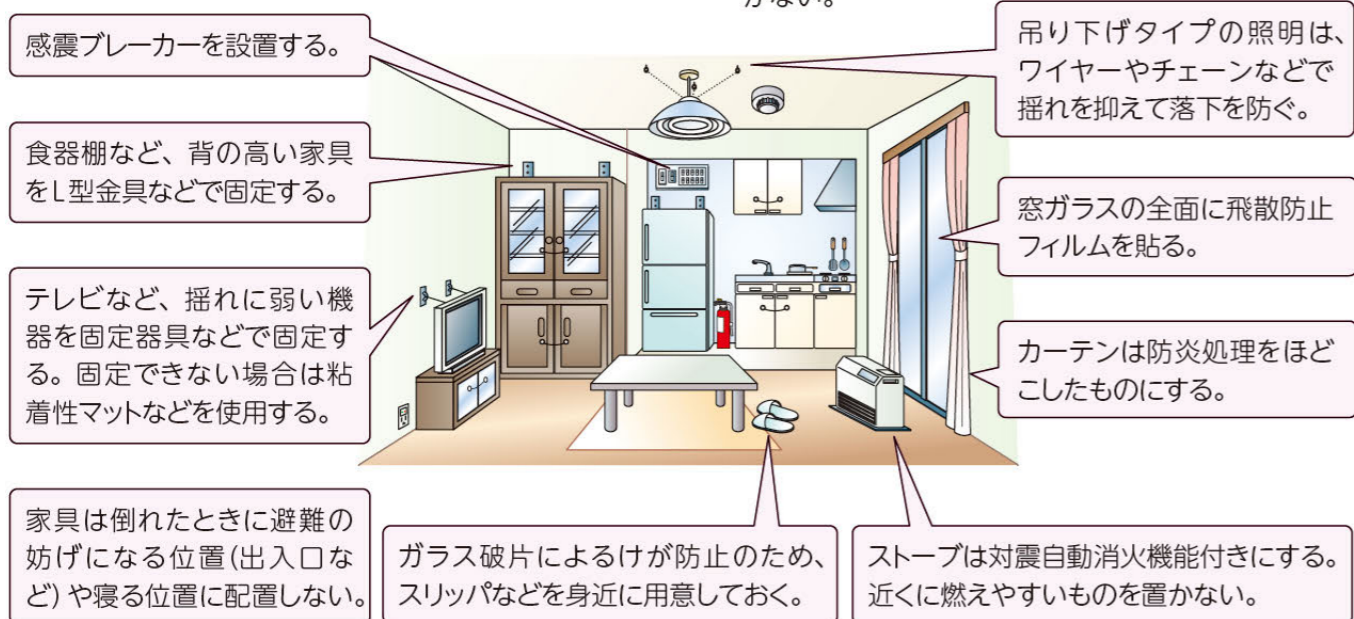
●浸水防止の準備

地下施設など浸水の危険がある場所には、土のう、止水板、排水設備(ポンプ)を準備し、日頃から整備・点検を心掛ける。

●屋内

過去の震災では、家が無事でも家具の転倒などにより負傷したり、転倒した家具やガラスの破片などを片付けられず、避難所での生活を余儀なくされるケースが多くあります。安全な部屋作りを今すぐ実践しましょう。

- 大きな家具は人の出入りの少ない部屋にまとめて置く。
- 重い物は下の段に収納する。
- 玄関や廊下には物を置かない(避難時の妨げになる)。
- 高齢者や子どもの部屋・寝室に、倒れやすい家具は置かない。



ペットに関する備え

ペットが安心して避難生活を送れるように準備しておきましょう。

ペットの災害対策

いざというとき、ペットを守ることができるのは飼い主だけです。

まず飼い主が無事であること、避難する場合は一緒に避難することが基本です。ともに安全に避難でき、周りの人へ迷惑をかけず、安心して過ごすためには、日頃からの心構えと備えが大切です。

●健康管理

必ずしていただきたいこと

- 飼犬、飼猫の登録(生涯1回)
マイクロチップの装着と環境省指定登録期間への登録(令和4年6月1日以降に生まれ、ペットショップ等から購入した犬猫については義務)。
※狛江市は、犬のマイクロチップ登録が従来の金属の鑑札の代わりとなります。
- 狂犬病予防注射(毎年1回)

日頃からしていただきたいこと

- ノミやマダニの駆除
- 各種予防接種



●しつけ

災害時は環境の変化からペットが強いストレスを感じ、普段と違う行動をとることがあります。他人に迷惑をかけること、ペットのストレス軽減のため、日頃から必要なしつけを行いましょう。

必要なしつけ

- キャリーバッグやケージに慣らしておく。
- 犬の場合は「マテ」「オイデ」ができる。
- むやみに吠えないようにする。
- 決められた場所で排泄ができる。
- 人や動物に慣らしておく。
- 様々な音や物に慣らしておく。



●ペットの避難

指定避難所への同行避難

狛江市では、指定避難所への避難の場合、飼い主とペットの同行避難を原則としています。

同行避難は、ペットと同じ場所にいられることではなく、指定避難所内のペットの専用スペースで飼い主が持参したケージで滞在させることです。

指定避難所以外への避難

災害に備えて、日頃からペットが親戚や友人宅、ペットホテルなどで生活できるように、しつけや準備をしておきましょう。

●ペット用の非常持ち出し品

- 5日以上のフードと水、器
- 療法食、薬(必要なペットには必ず準備)
- 予備の首輪、リード(伸びないもの)
- 飼い主の連絡先やペットの情報を記録したもの
- ペットシート、トイレ用品
- 好きなおもちゃ、ブランケット
- ケージ、キャリーバッグ



ペットの災害対策については、環境省のパンフレット「ペットも守ろう!防災対策」をご覧ください。



不特定多数の人が集まる避難所では、ペットは強いストレスを感じてしまいます。また、動物が苦手な方や、動物アレルギーの方への配慮が必要となります。

大切なペットを守るため、可能な限り、親戚や友人宅、ペットホテルなどの、指定避難所以外の安全で安心できる避難先の検討をお願いします。



狛江市の助成制度をご活用ください

市では、木造住宅や分譲マンションへの耐震助成や、住宅への雨水浸透ます、雨水貯留槽の設置助成などを行っています(令和8年3月現在)。

地震関連

- 家を耐震診断したい、耐震化(改修・解体・建替え)したい
→「木造住宅耐震助成」「分譲マンション耐震助成」
 - ブロック塀を撤去したい
→「危険ブロック塀等の撤去費用に対する助成制度」
- 問合せ先：都市建設部 まちづくり事業課

雨水関連

- 雨水浸透ますを設置したい
→「雨水浸透ます設置助成」
 - 雨水貯留槽を設置したい
→「雨水貯留槽設置助成」
- 問合せ先：環境部 下水道課

狛江市ホームページ「暮らしのガイド」



耐震(地震関連)



下水道(雨水関連)

備えと準備

備えと準備

配慮が必要な方への支援

災害時に特別な配慮が必要な方がいます。地域で助け合いましょう。

支援が必要な方は個別避難計画の作成を

要介護状態の方や障がいのある方など、日頃から見守りが必要な方や災害時に支援が必要な方を対象に災害発生時などにおける安否確認や避難支援、避難所での生活支援を的確に行うため、「個別避難計画」の作成をお願いしています。

個別避難計画は市で保管するとともに、地域の避難支援等関係者(警察・消防・社会福祉協議会や民生委員児童委員協議会など)と情報を共有し、災害時の安否確認などに利用するほか、日頃の見守り活動に役立てています。

個別避難計画の作成や避難支援などについて

「個別避難計画」の作成や支援に関しては、福祉政策課までお問い合わせください。

配慮を必要としている方への支援をお願いします

市では、配慮を必要としているかが誰の目にも一目でわかるように「障がい者用災害ベスト」や「ハンカチ」などを作成しています。これらを身に付けている方を見かけたら、適切な支援をお願いします。なお、市で配布をしているものには(※配布中)と記載しています(在庫切れの場合あり)。



ヘルプマーク(※配布中)

外見から配慮が必要なことがわかりにくい方が、支援を得やすくなるよう作成されたマークです。

ヘルプカード(※配布中)

緊急時連絡先や、配慮・支援の内容が記載された名刺大のカードです。



SOS! 黄色いハンカチ(※配布中)

障がいのある方、高齢者、妊婦、外国人など、援助や配慮を必要としている方が付けています。見かけたら、「何かお困りですか」と声をかけてください。

防災ラジオ(※配布中)

個別避難計画を作成された方を対象に、災害時に自動で起動する防災ラジオを無償で貸与しています。



高齢者・妊産婦・乳児のいる方には

- ゆっくりと優しく対応してください。
- 体調不良を起こしやすいので、必要があれば支援してください。

車椅子の方には

- 車椅子を押すときは、動かす前に声をかけてください。
- 車椅子の通行の妨げにならないように、日頃から通路は広く開けておきましょう。

視覚障がい者用災害ベスト(※配布中)

視覚障がいの方が身に付けています。誘導するときは、どうして欲しいかを聞いて、相手のペースに合わせた支援をお願いします。



聴覚障がい者用災害ベスト(※配布中)

障がい者用災害ベスト(※配布中)

視覚・聴覚障がい者以外の障がいのある方が身に付けています。



耳が聞こえない方のためのバンダナ

聴覚障がいの方が身に付けています。ジェスチャーや筆談具を用いてサポートしてください。また、口話(口の形を読みとる)で伝えられることがあります。



福祉避難所

高齢者、障がい者、妊産婦・乳幼児など要配慮者の方が必要とする福祉的配慮などが比較的整っている施設です。

注意点

- 福祉避難所に直接避難することはできません。まずは指定避難所へ避難しましょう。
- 指定避難所には、福祉避難スペースが設置されますので、要配慮者に該当と思われる方もまずはお近くの指定避難所へ避難してください。
- 災害時に全ての福祉避難所が開設されるものではありません。

施設名

- ・あいとぴあセンター
- ・西河原公民館
- ・中央公民館
- ・野川地域センター
- ・岩戸地域センター
- ・南部地域センター
- ・狛江こだま幼稚園
- ・狛江みずほ幼稚園
- ・子鹿幼稚園
- ・こまえ苑
- ・こまえ正吉苑
- ・こまえ正吉苑二番館
- ・ミライハウス元和泉
- ・複合介護施設和楽
- ・愛光女子学園
- ・ひだまりセンター
- ・シンフォニー
- ・グループホーム朋1
- ・グループホーム朋2
- ・カレーショップメイ
- ・グループホームえだまめ
- ・こまえ工房

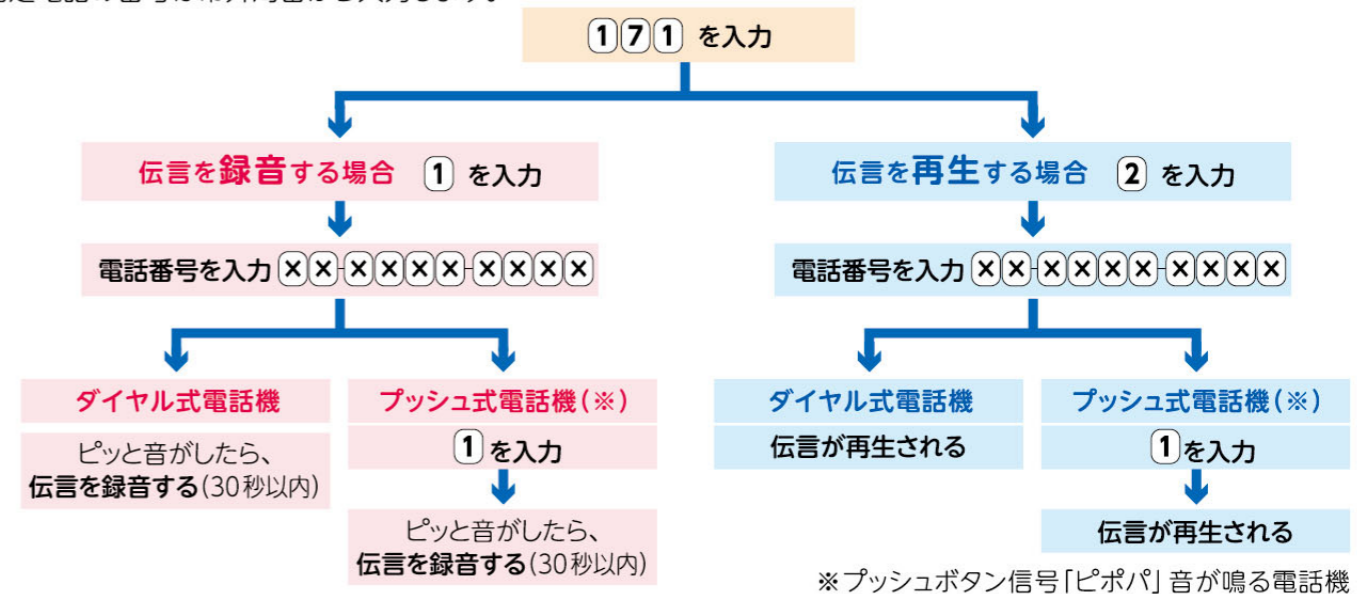
安否の確認方法

いざという時の安否確認手段を家族で共有しておく、安心して外出先にとどまることができます。

狛江市防災ミニアプリ(P15)内「もしもの時は」→「災害用伝言サービス」からも確認できます。

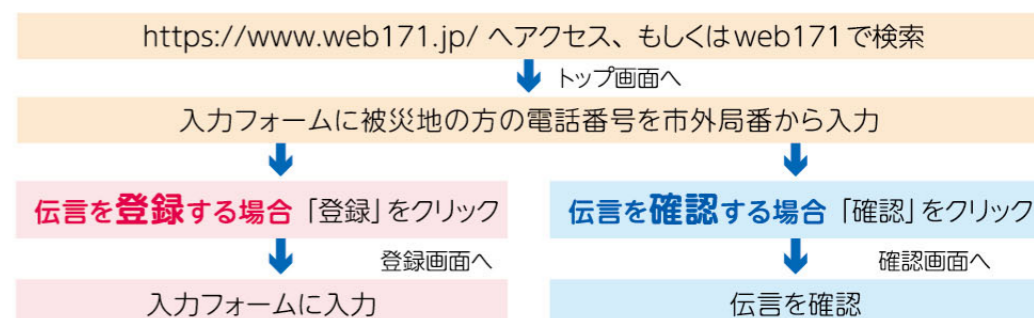
災害用伝言ダイヤル(171)

被災地の方の加入電話・携帯電話・IP電話などの電話番号に1伝言当たり30秒(最大20件)まで登録できます。なお、固定電話の番号は市外局番から入力します。



災害用伝言板(web171)

web171では、電話番号を入力して最大100文字の伝言(テキスト)を登録します。登録された伝言は電話番号をキーとして全国(海外含む)から確認することができます。



帰宅困難対策

災害は自宅にいる時に起きるとは限りません。仕事や学校、買い物など、外出中に被災してしまった場合に備えておきましょう。

帰宅困難に備える

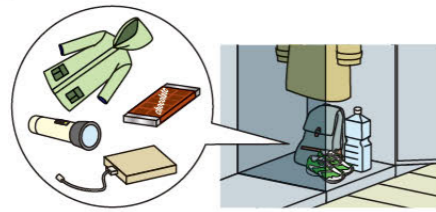
外出中に災害が発生した場合、交通機関が停止し、帰宅が困難になる場合が予想されます。

無理に帰宅しようとすると、二次災害に遭う危険性や、防災関係機関による救助活動の支障になることもあります。正確な情報を収集し、家族と連絡を取りながら、勤務先や避難場所まで待機しましょう。

●帰宅グッズを用意する

職場のロッカーなどに入れておきましょう。

- 飲料水
- チョコやキャラメルなどの携帯食料
- 歩きやすい靴
- モバイルバッテリー
- 携帯ラジオ
- 地図
- 懐中電灯
- 防寒着



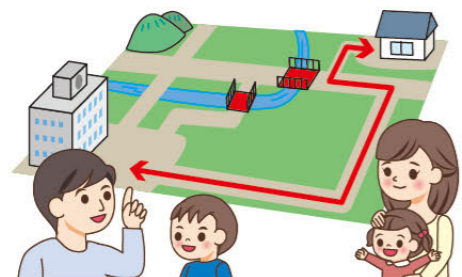
いつも持ち歩くバッグに、最低限の防災セットを入れておくと、通勤中などに被災しても安心です。

- 上記の帰宅グッズ(靴以外)
- 現金(公衆電話用に10円や100円硬貨)
- マスク
- ティッシュ・ウェットティッシュ
- 携帯トイレ
- 持病の薬、常用薬
- 連絡先メモ
- 大判のハンカチ(または手ぬぐい)
- ホイッスル

●帰宅ルートを決めておく

外出先で災害が発生したときの集合場所や避難先などを、家族で決めておきましょう。

また、職場や学校から徒歩で帰宅する場合の安全なルートを調べておきましょう。



●安否確認手段・情報収集手段を考える

災害発生時にはどのような連絡手段が活用できるかわからないため、複数の安否確認手段を考えておくことが重要です(P13参照)。

また、正しい情報の入手先を右ページで確認しましょう。

●支援施設を確認する

災害時帰宅支援ステーション

帰宅困難者の徒歩帰宅を支援するため、可能な範囲で水道水やトイレ、情報などを提供する施設です。



- コンビニエンスストアやガソリンスタンドなど。

一時滞在施設

帰宅困難者などを一時的に受け入れる施設です。トイレの利用や飲料水などの提供があります。

- 都立高校や民間の施設など。
- ※一時滞在施設の情報は右記の二次元コードで確認できます(東京都防災ホームページ内)。



帰宅困難対策のポイント

- むやみに移動せず、職場に留まりましょう。
- 家族との連絡手段を事前に複数確保しておきましょう。
- 最低限3日分の食料などを、事業所に用意しておきましょう。

正しい情報を手に入れる

災害時は正しい情報入手し、冷静に行動することが大切です。

狛江市が発信する情報はこちらで入手

●狛江市防災ミニアプリ



防災関係の各種情報について、地域ポイントサービス「こまポ」内で簡単に確認できます。気象情報やハザードマップ等、必要な情報が分かりやすくまとまっています。

以下のような情報が確認できます。

- ・ 排水樋管水位情報(六郷・猪方)
- ・ 気象庁の気象情報
- ・ 河川の水位情報(国土交通省や東京都)
- ・ ハザードマップ
- ・ ライフライン状況 など



●狛江市公式ホームページ

<https://www.city.komae.tokyo.jp/>



●Yahoo! 防災速報(アプリ)

地震や豪雨などの気象情報の他、狛江市の緊急情報などを入手できます。



●防災行政無線

聞き取れなかった場合は、下記の番号で確認できます。
防災行政無線自動応答システム
電話0800(800)0504(通話料無料、24時間対応)
※携帯電話の場合、つながらない可能性があります。

●こまえ安心安全情報メール

<https://anzen-komae.jp/komae/entry>
避難情報や避難所の開設状況などの災害情報や防犯情報を受信できます。



●テレビのデータ放送

テレビのリモコンのdボタンを押して、NHKのデータ放送画面から狛江市の避難情報などを確認できます。



●コマラジ(85.7MHz)

狛江のコミュニティFM。災害が発生した際に、狛江市の避難情報、支援情報などを入手できます(Radimo(レディモ)アプリをインストールするとスマートフォンでも聴くことができます)。



●VACAN Maps

災害発生時、パソコンやスマートフォンなどで[VACAN Maps]にアクセスすることで、避難所の開設状況や混雑状況が確認できます。



官公庁などの情報も確認しましょう

●東京都防災

ホームページ <https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/>



●東京都防災アプリ

ホームページ <https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/1028747/>



備えと準備

備えと準備

地震から身を守る

地震は突然発生します。地震発生時の行動を事前に確認しましょう。

地震発生後の避難の流れ

地震発生

最優先で身の安全を確保!

命を守る3原則



状況確認&余震に備える

- ① 火元を確認する(火を消す)。
- ② 出口を確保する(扉や窓を開ける)。
- ③ 家族の安全を確認する。
- ④ 靴や厚手のスリッパを履く。
- ⑤ 正しい情報を入手する。
- ⑥ 漏電・ガス漏れに注意する。
- ⑦ 避難する場合は、電気のブレーカーを落とす。
- ⑧ 近所の状態、近所の人の安否を確認する。
- ⑨ 動ける余裕があれば、救出、救助、消火活動などに参加する。

火災や倒壊など危険が迫っている?

大丈夫

危ない

すぐに避難!



災害時集合場所 (すぐ集まる場所)

近隣の避難者が一時的に集合して、様子を見たり、避難のために集団を形成する場所



防災協力農地 (避難用農地)

災害時に一時的に避難できる農地(普段は立入り不可)

自宅の被害は?

大丈夫

危険で住めない

自宅で生活

災害時にも自宅で生活できるよう、耐震化を進めましょう。



福祉避難所

必要に応じて開設(P13参照)



指定避難所

要配慮者など避難所生活が難しい

必要に応じて開設。市内各小・中学校・西和泉体育館・上和泉地域センター・狛江高校の体育館

自宅で被災したら

●自分の身を守る

- テーブルなどの下で身を伏せる。
- 座布団やクッションなどで頭を守る。
- 揺れが収まるのを待つ。



●火元を確認

- あわてず揺れがおさまってから火を消す。
- 火の勢いが強いときはその場から離れる。



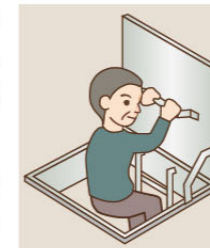
●落ち着いて行動する

- 慌てて外に飛び出さない。
- 割れたガラスの破片などに注意する。スリッパや室内でも靴を履く。



●マンションからの避難

- 玄関や非常階段から避難できない場合は、ベランダにある避難はしごや隔板(ベランダにある隣の部屋との区切り)から避難する。
- ベランダの床に避難ハッチがあれば、ハッチの蓋を開けて、避難はしごを下ろして下階に避難する。



●周囲の安全を確認する

- お互い声をかけ合って、状況と安全を確認する。



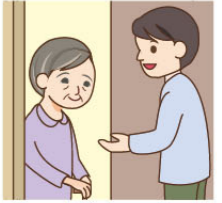
●出口を確保する

- 玄関や窓を開けて出口を確保する。
- 玄関や窓が再び閉まらないように、手近なものを挟みこんでおくとよい。



●ご近所の安否を確認

- 近所の人に声をかけて安否を確認する。
- 身体の不自由な方やお年寄りには特に注意を払う。



- 非常時には隔板を破って隣の部屋のベランダに避難する。
- 避難ハッチの上や隔板の近くに物を置かない。



外出中に被災したら

●街中・道路

- ブロック塀、自動販売機などのそばから離れる。
- 窓ガラスや看板の落下などに注意し、頭をカバンなどで保護する。

●地下街

- 停電時は、むやみに動かない。
- 落ち着いて落下物から身を守り、柱や壁のそばで揺れが収まるのを待ち、一つの非常口に殺到せずに地上に出る。

●運転中

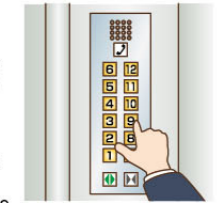
- 徐々にスピードを落として、道路の左側に停める。
- エンジン进行を切り、揺れがおさまるまでは車内に留まる。
- 避難する時は、車のキーはつけたまま、ドアをロックせず車検証を持って避難する。

●百貨店・スーパーマーケットなど

- 商品棚から離れ、柱や壁際、階段の踊り場に身を寄せる。
- 場内放送や係員の指示に従う。

●エレベーター内

- 全ての階のボタンを押し、停止した階ですぐに降りる。
- 閉じ込められた場合は、非常ボタンを押し続け、非常用電話で助けを求めよう。



●電車・バス

- 緊急停車・急ブレーキに備える。
- 立っている場合は、姿勢を低くして身を守り、座っている場合は、カバンなどで頭を保護する。満員時は手すりなどにしっかりつかまる。
- 乗務員の指示に従う。



風水害の情報収集

多摩川・野川・入間川の水位や、発令される避難情報・気象情報を正しく理解して、身の安全を守りましょう。

多摩川・野川・入間川の情報に注意

多摩川の水位と避難情報

多摩川は、水位の上昇に合わせて、段階的に避難情報が発令されます。

ただし、事態が急変した場合、警戒レベル1~5の順で発令されないことがあります。



野川・入間川の水位と避難情報

野川と入間川は川幅が狭いため、大雨が降ると急激に水位が上昇し、洪水予報の発表後から短時間で氾濫するおそれがあります。

そのため、多摩川のような段階的な情報発表は行われず、「氾濫危険警報」が発表され、狛江市から避難指示が発令されます。



※ 警戒レベルや避難情報の名称は、法改正などにより変更になる場合があります。



警戒レベルと発令される情報

避難情報

市が発令
＜避難の必要性を知るための情報＞

災害が発生するおそれのある場合、市は、警戒レベルを付した避難情報を発令します。この避難情報は、気象庁などから発表される防災気象情報などにに基づき、市が発令するものです。

気象情報と同レベルの避難情報が、必ず同時に発令されるわけではありません。自らの生命は自ら守る意識を持って、気象情報も参考にしながら、適切な避難行動をとってください。

防災気象情報※1

気象庁などが発表
＜天候や河川の状態を知るための情報＞

大雨や暴風などによって発生する災害の防止・軽減のため、危険度の高まりに応じて注意報、警報、危険警報、特別警報を段階的に発表しています。

- 大雨**
- 台風や大雨に関する情報です。
 - 気象庁から発表されます。
- 河川氾濫**
- 指定河川の水位や流量などの情報です。
 - 気象庁、国土交通省または都道府県の機関から発表されます。

警戒レベル5では、すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。また、必ず発令されるものではありません。**警戒レベル3**や**警戒レベル4**で、地域の皆さんで声をかけ合って、安全・確実に避難しましょう。

警戒レベル	避難情報	大雨	河川氾濫	とるべき行動
警戒レベル5	緊急安全確保	警戒レベル5(相当) 大雨特別警報	警戒レベル5(相当) 氾濫特別警報	命の危険 直ちに安全確保!
＜ 警戒レベル4までに必ず避難! ＞				
警戒レベル4	避難指示	警戒レベル4(相当) 大雨危険警報	警戒レベル4(相当) 氾濫危険警報	危険な場所から 全員避難
警戒レベル3	高齢者等避難	警戒レベル3(相当) 大雨警報	警戒レベル3(相当) 氾濫警報	高齢者等は危険な場所から避難
警戒レベル2	—	大雨注意報	氾濫注意報	自らの避難行動を確認
警戒レベル1	—	早期注意情報	—	災害への心構えを高める

※1 令和8年5月下旬から運用予定

河川の様子を見に、水が増えた河川や橋に近づくのは大変危険です。

必ず安全な室内で、テレビやラジオ、インターネットから情報を入手してください。



風水害から身を守る

突発的な地震と異なり、水害では的確な判断と行動で身の安全を守ることができます。

水害時の避難の流れ

避難行動では、災害が発生する前に洪水浸水想定区域や土砂災害の危険性がある場所から避難する「立退き避難」が基本です。「立退き避難」を行う余裕がない場合や、悪天候により外出することが危険な場合は「屋内安全確保」を行い、身の安全確保を最優先させます。

**基本は浸水前の立退き避難！
避難が遅れてしまったら屋内安全確保！**

狛江市洪水・内水ハザードマップを確認する(P32以降を参照)

確認ポイント

- 洪水浸水想定区域内に入っているか
- どの程度浸水するのか
- 浸水の継続時間はどれくらいか

多摩川氾濫時…………… ___ m
野川・入間川氾濫時… ___ m

自宅は洪水浸水想定区域内にありますか？

はい

いいえ

自宅の状況を確認する

確認ポイント

- 自宅が2階建て以下で浸水想定が3m以上、もしくは洪水浸水想定区域内で、家屋倒壊等氾濫想定区域に該当しているか

該当していますか？

はい

いいえ

浸水想定が0.5m以上に該当していますか？

はい

いいえ

自宅が堅牢で、2階以上などの避難できる場所がありますか？

いいえ

はい

屋内待機

原則、避難の必要はありません

避難情報が発令されたら、避難を開始しましょう。発令されていなくても身の危険を感じたら、自主的に避難しましょう。

立退き避難 (詳細は右ページ参照)

避難情報が発令されたら、早めに安全な場所へ立退き避難を行ってください。指定避難所の他に、安全な場所にある親戚・知人宅なども避難先として考えておきましょう。



屋外への避難が危険な場合は、屋内安全確保を行ってください。

屋内安全確保 (詳細はP22参照)

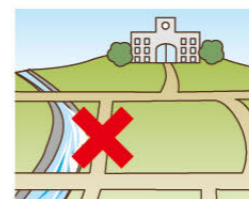
高台の安全な場所まで立退き避難をする時間がない、または、移動に危険が伴う、もしくは、移動が困難な場合は、堅牢な建物の浸水しない階層や崖などの危険な場所から最も離れた部屋などへ避難してください。



立退き避難の注意点

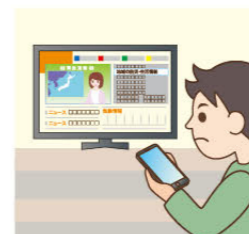
①安全な避難経路と避難先

- 避難所までの安全な避難経路を複数確認しておきましょう。
- 近道でも、川沿いなどの危険な場所は迂回しましょう。
- 市内各所には、多摩川氾濫時の浸水深と近隣の洪水時避難所を表示する「想定浸水深表示板」を設置しています。



②自主的に行動する

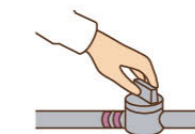
- テレビやラジオで最新の気象情報や避難情報を積極的に確認しましょう。
- 危険を感じたら、避難情報の発令を待たずに自主的に避難を開始！
- 近所に高齢者など避難行動に時間のかかる要配慮者がいる場合は、声をかけて一緒に避難しましょう。
- 知人宅などに避難するときは、公共交通機関が動いているうちに、早めの避難を心がけましょう。



指定避難所は不特定多数の人が集まるため、プライバシーが大幅に制限され、感染症のリスクも高く、特に小さな子どもや高齢者は強いストレスを感じる環境です。安心した避難のために、安全な場所にある知人や親戚宅、ホテルなどへの宿泊を含め、平時から避難先を検討・相談しておきましょう。

③家を出る前に

- ガスの元栓を閉めましょう。
- 電気のブレーカーを切りましょう。
- 避難することを親戚や知人に連絡しましょう。



④行動と服装

- 単独行動は厳禁です。
- 非常持ち出し品を忘れずに。
- 動きやすい服で運動靴を履きましょう。(長靴は水中で足を取られて危険)



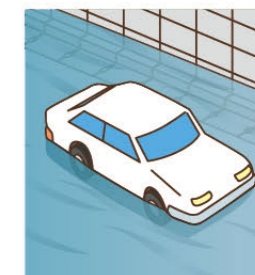
⑤歩く際の注意点

- 人が歩ける水深は50cm程度。流れが速い場合は浅くても危険！
- 長い棒や傘を杖代わりにして、側溝やマンホールの蓋が外れていないか確認して歩きましょう。



⑥車で避難しない

- 冠水した道路では車が動かなくなります。また水深が増すと車ごと流される危険もあります。
- 車での避難は緊急自動車の通行の妨げや交通渋滞の発生要因になります。
- 病人や要配慮者などの避難支援を除いて、車での避難は避けましょう。
- 市が指定した洪水時の避難所には、駐車場はありません。



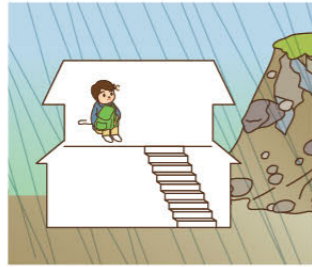
風水害

風水害

屋内安全確保の注意点

●自宅内の生活場所

- 浸水しない上階で、家の中心部に近い窓のない部屋や、がけなどの危険な場所の反対側の部屋で過ごしましょう。
- すべての雨戸、カーテンを閉めましょう。
- 排水口からの逆流を防止するため、ふろ場や洗濯機の排水口、洋式トイレの水たまりの上に「水のう」を置きましょう。
- 大切な物や運搬可能な家財道具、電化製品などは、高所や上階に移動させましょう。
- 鉢植えや自転車など、家の外に飛ばされそうなものや、流されそうなものを、屋内に入れましょう。



●避難生活

- ライフライン(電気、ガス、上下水道)は使えなくなる可能性があります。
- 周辺が浸水していると外出できないため、自宅にある物資と非常持ち出し品、備蓄品を消費して生活します。
- 大雨時には湿度も高く、衛生状況が非常に悪くなります。

●リスク

- 水が引くまでは、自分たちで対応するしかありません。
- 体調を崩してもすぐに救助は来ません。
- 食料や医療品などの調達ができません。

屋内安全確保は、緊急事態を回避する最終手段です!
日頃から安全な避難先を検討しましょう!

家屋の台風対策(暴風・浸水対策)

●家の周りの再点検

- 庭木に支柱を立てたり、塀を補強しましょう。
- 家の周りにあるもので強風などによって飛ばされる可能性のあるものは、室内にしまいましょう。しまうことができない場合は、飛ばされないようにしっかり固定しましょう。
- 家の外に置いてあるものが強風で飛ばされ、近隣の家を損壊させたり、歩行者にケガをさせるおそれがあります。
- マンションなどにお住まいの方は、ベランダや外廊下にある物を片付けましょう。

●側溝、雨水ますの掃除

- 道路の側溝や雨水ますの詰まりは、道路冠水や浸水の原因となります。
- 上にブロックなどを置かないでください。
- 日頃からの清掃にご協力をお願いします。



●窓や雨戸の補強

- 雨戸のない窓は、ガラスのひび割れや窓枠のガタつきがないか調べ、ガラスに養生テープを貼るなどして補強しましょう。
- 万が一、窓ガラスが割れた時のために、カーテンなどを閉めておくといいでしょう。



●排水口からの浸水対策

- ゴミ袋等で作った簡易水のうで風呂場やトイレ等の排水口をふさぎましょう。

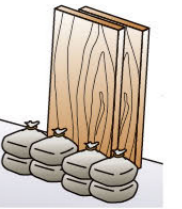


●床上浸水の対策

- 家財や家電などは浸水の被害を受けないように、高所や安全な上階に移動させましょう。
- 電気のコンセントは漏電、ショート、感電などが発生する可能性があります。家電製品などのコンセントは抜き、低い位置にあるものは高所へ移動させましょう。

●土のうや止水板などを準備

- 自宅や事業所などで浸水が予想される場合は、土のうや止水板を準備しましょう。
- 特に半地下建物や地下室のある家屋などは必ず浸水対策を行いましょう。
- 市では市民の皆さんが自由に土のうを使用できる「土のうステーション」を設置しています。
※土のうが少なくなったら、安心安全課までご連絡ください。
※使用後の土のうは戻さず、各自で処分してください。



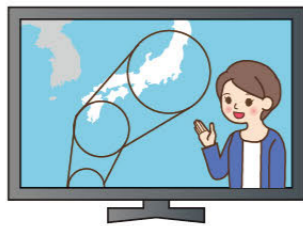
台風から身を守る

風水害の中でも台風は事前予測がしやすく、対策の時間も十分にあります。気象情報に注意して、早めに行動を開始しましょう。

台風の接近が予測されたら

●最新の情報に注意しましょう

台風の進路予想など最新の台風情報を確認しましょう。また、大雨や暴風などの警報・注意報や雨雲の動きなども確認しましょう。



●避難場所などを再確認しましょう

立退き避難が必要な場合(P20参照)は、親戚・知人の家、ホテルなどの宿泊施設などの避難先を確認しておきましょう。
また、避難所の位置や安全な避難経路などを確認しておきましょう(P21参照)。



●車両を安全な場所に移動しましょう

早めに高い場所に車両を移動させましょう。日頃から退避場所(高所にある時間貸し駐車場など)を事前に決めておきましょう。

台風から身を守る

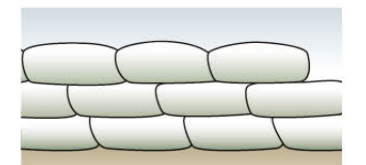
●土のうを積む際のポイント

土のうは状況によって様々な積み方があります。また、あらかじめビニールシートを敷いておき、積んだ土のうを包むとより効果的です。

縛り口を家屋側に向け隙間無く積む

一段積み終わったら踏みつけて平らにする

積み上げる場合は下段とずらす



「土のうステーション」設置場所

■ 第一地区消防隊器具置場
(中和泉四丁目16番)

■ 供養塚児童公園
(駒井町三丁目3番)



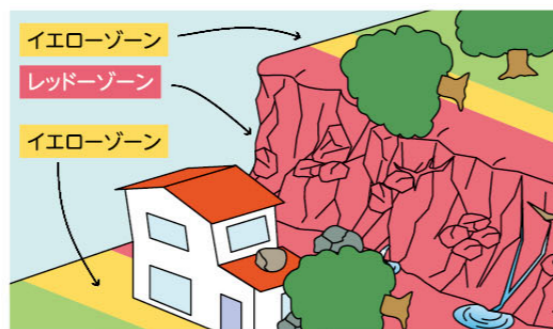
土砂災害から身を守る

普段は安全な場所でも、大雨などにより地盤がゆるみ、地震などの影響で、土砂災害が発生することがあります。

急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)

市内で想定される土砂災害は「急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)」です。急傾斜地の崩壊は、雨や地震などの影響によって、急激に斜面が崩れ落ちる現象です。

土砂災害が発生するおそれのある区域が、イエローゾーン(土砂災害警戒区域)に指定されています。イエローゾーンのなかで、建物が壊れて生命や身体に危害が生じるおそれがある区域をレッドゾーン(土砂災害特別警戒区域)といいます。



●土砂災害の情報と避難行動

警戒レベル	避難情報	防災気象情報※1	とるべき行動
警戒レベル5	緊急安全確保	警戒レベル5(相当) 土砂災害特別警報	命の危険 直ちに安全確保!
< 警戒レベル4までに必ず避難! >			
警戒レベル4	避難指示	警戒レベル4(相当) 土砂災害危険警報	危険な場所から 全員避難
警戒レベル3	高齢者等避難	警戒レベル3(相当) 土砂災害警報	高齢者等は 危険な場所から避難
警戒レベル2	—	土砂災害注意報	自らの避難行動を確認
警戒レベル1	—	早期注意情報	災害への心構えを高める

※1 令和8年5月下旬から運用予定



猪防ポイント

河川からの逆流や浸水を防ぐ施設

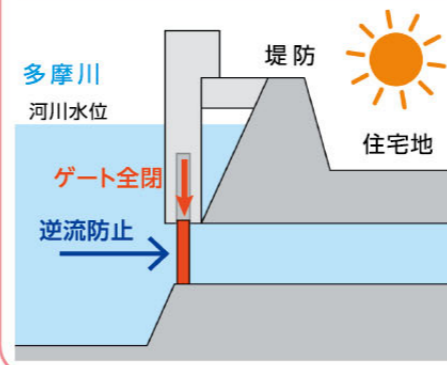
排水樋管

排水樋管とは、下水道から雨水を河川に排水する箇所に設けられる施設です。堤防の中にコンクリートの水路が作られており、排水の際は雨水が堤防の中を横断するようになっています。

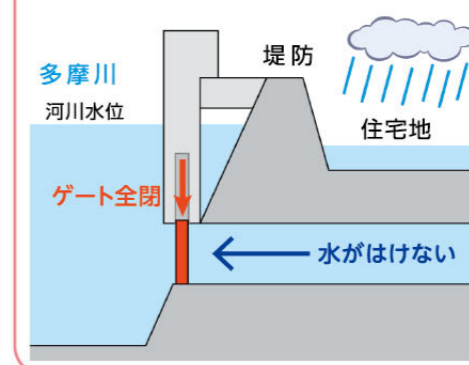
市内には、多摩川に排水する猪方排水樋管と六郷排水樋管の2施設があります。多摩川の水位が上昇した際、ゲートを閉じることで河川からの逆流を防止します。ただし、大雨の時は住宅地側でも水が増えるので注意が必要です。

猪方排水樋管と六郷排水樋管の水位情報と映像は、防災ミニアプリ内の排水樋管水位情報で見ることができます。

1 宅地側の水が増えなければ・・・
樋管を閉じると、宅地側への逆流を防ぎ、浸水しにくくなります。



2 宅地側でも水が増えれば・・・
樋管を閉じると、宅地側の水がはけずに浸水被害が発生しやすくなります。



猪方排水樋管



六郷排水樋管

国民保護

テロや武力攻撃等への備え

武力攻撃やテロの情報を得たら、すぐに避難行動をとりましょう。

想定される事態と避難行動の例

国民保護とは、武力攻撃や大規模なテロが発生した場合に国や地方公共団体などが国民の生命・身体・財産を保護することです。

●想定される事態(一例)

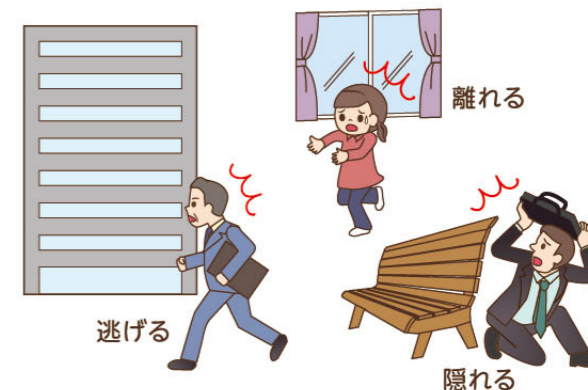
- 弾道ミサイルによる攻撃
- 化学剤などによる攻撃
- ゲリラや特殊部隊による攻撃
- 着上陸侵攻・航空攻撃

●武力攻撃(弾道ミサイル落下)時の行動

【Jアラートが聞こえたら】

弾道ミサイルは、発射から10分たらずで到達することもあります。Jアラートなどで情報を得たら、直ちに以下の行動を取りましょう。

- 逃げる** ●屋外にいる場合は、近くの頑丈な建物か地下に避難しましょう。
- 離れる** ●室内にいる場合は、爆風で割れたガラスでケガをしないように、窓から離れるか窓のない部屋へ移動しましょう。
- 隠れる** ●建物がない場合は、物陰に身を隠すか地面に伏せてかばんなどで頭部を守りましょう。



その他の詳細については、内閣官房パンフレット「武力攻撃やテロなどから身を守るために」をご覧ください。



避難所での共同生活

避難所は、皆で協力し、助け合って運営されます。周囲への思いやりはもちろん、自分自身へのケアも大切にしましょう。

避難所に入所する前に

避難所へ行くときは、家を出る際に右の項目を確認しましょう。



- 親戚などに避難をすることを伝えましたか？
- 近所の高齢者や身体の不自由な方に声をかけましたか？
- ブレーカーやガスの元栓は確認しましたか？
- 非常持ち出し品は持ちましたか？支援物資が配られるまでに必要なもの(P8参照)はありますか？

避難生活での思いやりと支援

避難所は不特定多数の避難者が共同で生活します。ルールを守り、お互い協力し、助け合って避難生活をしましょう。

また、悩みや不安がある時は、一人で抱え込まずに、周りの人や運営に携わっている人に話してみましょう。



●共同生活のマナーとルール

避難生活に係る仕事(居住空間の掃除、ゴミ捨てなど)は、基本的に避難者全員で協力・分担します。トイレ掃除や炊き出しなどが一部の避難者のみの負担にならないようにしましょう。また、ゴミの管理や喫煙などは避難所のルールを守りましょう。



●避難所運営に女性の視点

避難所の運営は男性が中心になりがちです。女性が運営に関わることで、配慮できることが多くなります。

- 授乳スペースの確保
- 女性専用の洗濯物干し場の確保
- 生理用品や女性特有の物資の配布 など



●ペットの同行避難

ペットを飼っている方は、ペットにストレスを与えないようにできるだけ知人宅などへ一緒に避難しましょう。

やむを得ず避難所へ同行避難する場合は、ケージに入れた上で人とペットは別の場所で生活し、ペットの世話は飼い主自ら行うことになります(P11参照)。

避難生活での健康管理

避難生活が長引くと、生活環境などの大きな変化によって体調を崩したり、持病が悪化する、病気が蔓延するといった深刻な事態に見舞われる可能性が高くなります。自分でできる範囲で生活管理・健康管理を行いましょう。



●水と食料の衛生管理

- 食品は冷暗所で保管し、直接床に置かない。
- 消費期限の過ぎた食品は捨てる。
- こまめに水分・塩分を補給する(脱水症状や熱中症予防)。
- 給水車による汲み置きの水は、できるだけ当日に給水したものを使用する。飲料水は生水は避け、ペットボトル入りまたは煮沸水を使用する。



●トイレ

- 使用後は手指を流水・石けんで洗う(水がない場合はウェットティッシュを使用)。
- 定期的に清掃、消毒する。



●病気の予防

- マスクを着用する(感染症予防)。
- 粉じんが舞い上がる環境ではマスクを着用する(じん肺予防)。
- ケガをしたときは傷口をよく洗い、医師の診察を受ける(破傷風予防)。
- できるだけ歯磨きを行う。できなければ少量の水で「口うがい(ブクブクうがい)」をする(口腔ケア)。
- できるだけ休息・睡眠をとる(こころのケア)。
- 毎日の生活の中で活発に動くようにする(生活不活発病の防止)。



●エコノミークラス症候群の予防

- 長時間同じ姿勢でいると、血行不良から血液が固まりやすくなり、肺塞栓など死亡する可能性のある病気を誘発するおそれがあります。
- 足や足の指をこまめに動かしたり、軽い体操やストレッチを行うなど、動かない生活が続かないようにしましょう。

猫防ポイント

避難＝「避難所に行くこと」ではありません！

避難所に多くの避難者が押し寄せると、プライバシーの確保も困難なため決して快適な生活空間にはならず、環境の変化により体調を崩す人もいます。自宅が危険な状態でなければ、自宅でも在宅避難をしましょう。住み慣れた自宅なら、環境の変化や集団生活のストレスで体調を崩すことも防げます。正しい情報を入手しつつ、備蓄しておいた食料などを使用して、自宅で生活しましょう。



在宅避難に備えて

- 十分な量の備蓄品を用意しましょう(P9参照)。
- 上下水道が使用できない場合、水洗トイレは使えません。家族が数日使える数の携帯トイレなどを用意しましょう(P9参照)。
- 自宅で生活できなくなる理由に、ガラスが割れたり家具が倒れることがあげられます。家と家具の防災対策をしておきましょう(P10参照)。

生活再建に向けて

普通の生活に戻るための公的支援制度があります。各種制度を利用して生活を安定させましょう。

片付ける前に被害状況を写真に残しましょう

被災後の生活再建への支援を受けるために、被害状況を写真に残しましょう。撮影した写真は、支援に必要な罹災証明書の発行や、保険会社への損害保険請求に役立ちます。

【撮影のポイント】

●本格的なカメラじゃなくても大丈夫

スマートフォンや携帯電話のカメラでも大丈夫です。状況がわかる写真を残すことが重要です。

●撮影した日付を控えておく

●被害にあった箇所は全て撮る

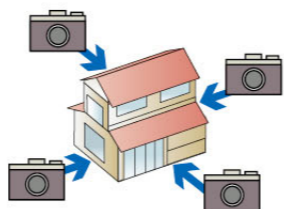
家のどの部分の被害かわかる遠景と、被害箇所のアップを撮りましょう。屋根や床下の基礎部分なども忘れずに。

●建物の外観は4方向から

正面だけでなく、横や裏からも撮りましょう。

●浸水した深さがわかるように

メジャーを当てて、深さがわかるよう写真を残しましょう。目盛りが見えるアップと、どこの被害かわかる遠景の両方を撮りましょう。



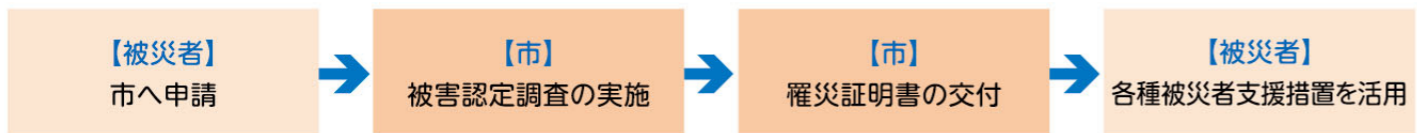
罹災証明書の交付までの流れ

●罹災証明書とは

罹災証明書は、地震や風水害などの自然災害により被災した住家の被害の程度を市が証明するものです。この証明書は、被災者生活再建支援金の支給や住宅の応急修理など、様々な被災者支援措置を受ける際に必要となります。

罹災証明書で受けられる支援措置(一例)

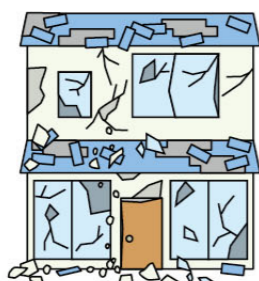
- 給付……被災者生活再建支援金、義援金
- 融資……(独)住宅金融支援機構融資、災害援護資金
- 減免・猶予…税、保険料、公共料金
- 現物支給…応急仮設住宅への入居、住宅の応急修理



被害認定調査とは

被災した住宅の「被害の程度(全壊、半壊など)」を認定するために、市の職員などが実施する調査です。この調査による認定結果に基づいて、罹災証明書が交付されます。

住宅の被害程度の認定は、国の基準が定められており、住宅の屋根、壁などの経済的被害の全体に占める割合(=損害割合)に基づき、被害の程度を認定します。原則、右の5つに「準半壊に至らない(一部損壊)」を足した6区分で認定を行います。



【被害の程度】

- 全壊………損害割合50%以上。補修して当該住宅に居住することが困難
- 大規模半壊…損害割合40%以上～50%未満。半壊し、大規模な補修を行わなければ当該住宅に居住することが困難
- 中規模半壊…損害割合30%以上～40%未満。半壊し、相当規模の補修を行わなければ当該住宅に居住することが困難
- 半壊………損害割合20%以上～30%未満。損壊が甚だしいが、補修すれば元通りに当該住宅に居住できる程度のもの
- 準半壊………損害割合10%以上～20%未満

再建のための支援措置

●被災者生活再建支援金

国や都が認めた自然災害によって居住する住宅が全壊するなど、生活基盤に著しい被害を受けた世帯に対して、住宅の被害程度に応じた「基礎支援金」と住宅の再建方法に応じた「加算支援金」合わせて最大300万円が支給されます。

支援金の特徴

●使い道が限定されません。しかし、支援金はあくまで生活再建の一助なので、住宅ローンや貯蓄の状況を考えて保険に加入するなどの自助努力が必要です。

被害程度に応じて支給する支援金(基礎支援金)

- ①全壊………100万円
- ②解体………100万円
- ③長期避難…100万円
- ④大規模半壊…50万円
- ⑤中規模半壊…0万円

+

再建方法に応じて支給する支援金(加算支援金)

- | | |
|------------------|-------|
| ①～④の場合 | ⑤の場合 |
| ●建設・購入………200万円 | 100万円 |
| ●補修………100万円 | 50万円 |
| ●賃借(公営住宅以外)…50万円 | 25万円 |

被災者生活再建支援金

※最大300万円
※世帯人数が1人の場合は、各支給額が3/4になります。

●災害援護資金貸付

災害救助法が適用された自然災害による世帯主の負傷、住居や家財が被害を受けた場合に、生活の再建に必要な資金を貸し付ける制度があります。

国の制度による貸付限度額

●負傷や被害の状況により150～350万円

都の制度による貸付限度額

●一律 150万円(国制度を超える場合)

※両制度合わせて最大500万円の貸付が可能。

償還期間

●10年間(据置期間3年含む)

貸付利率

●年1.0%(据置期間及び保証人を立てると無利子の場合あり)

●応急仮設住宅

応急仮設住宅は、自らの資金では住宅を確保することができない被災者に対して一時的な居住の安定を図るために提供されるものです。

●税制面などの支援

被災した方に対し、住民税や固定資産税などの徴収猶予や減免などの制度があります。その他、生活再建のための支援制度を複数設けています。



大規模災害では、新たな支援策が創設される場合があります。国や自治体からの情報を収集しましょう。



応急危険度判定

地震発生後、余震などによる建築物の倒壊や落下物、転倒物などの二次災害がおきることがあります。これを防止するため、できるだけ早く建築物の被災状況を調査し、当面の使用の可否について判定するのが応急危険度判定です。応急危険度判定が実施された建築物には「危険(赤)」「要注意(黄)」「調査済(緑)」のいずれかの判定結果が掲示されます。

応急危険度判定調査は、罹災証明書発行に伴う被害認定調査とは異なります。応急危険度判定で危険(赤)の判定となっても、罹災証明書で必ずしも全壊や半壊と認定されるわけではありません。



保険を確認しましょう

住宅の補修などには多額の費用が発生します。加入している住宅や自動車の保険の補償内容を確認しましょう。マンションにお住まいの方は、総会などで地震に備えた修繕積立や地震保険の加入・内容の確認について話し合っておきましょう。

FLOOD HAZARD MAP of KOMAE CITY 狛江市洪水ハザードマップ

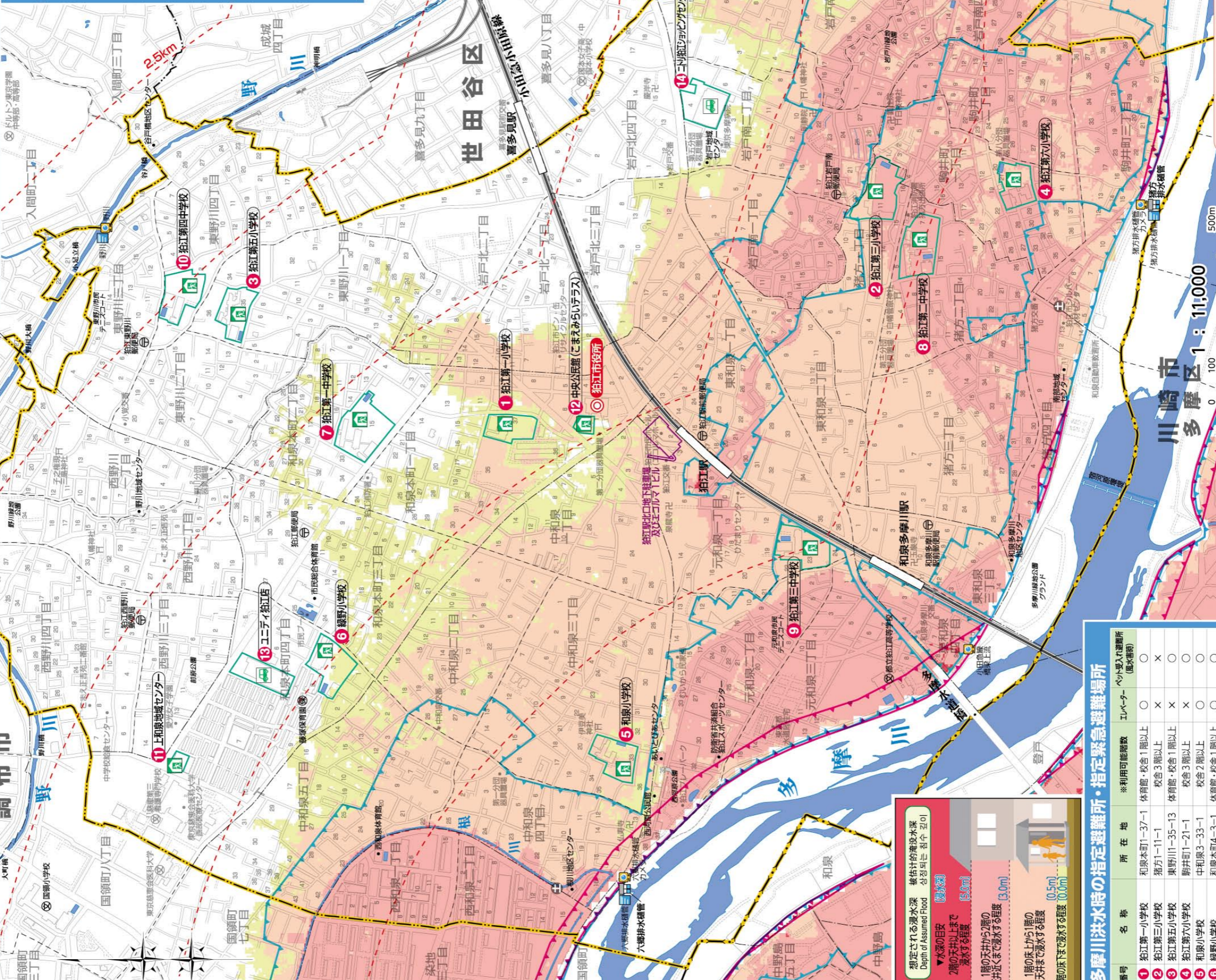
狛江市洪水防災地図 코마에시 홍수 방재 지도

Flood of Tamagawa 多摩川氾濫版 多摩川氾濫版 타마가와 범람판

この地図は、国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所作成の多摩川・浅川・大栗川に多摩川が氾濫した場合の水想定区域図(想定最大規模)をもとに、大雨時に多摩川が氾濫した場合の水想定区域や浸水深、避難所などを示したものです。
想定した雨量は、多摩川流域での48時間の総雨量が588mmという、水防法の規定に定められた想定しうる最大規模の大雨です。
なお、地図に示した浸水想定区域以外でも状況によっては浸水することもありますので、十分注意してください。
水防法第15条第3項に基づくハザードマップです。

LEGEND 凡例

- 指定避難所・指定緊急避難場所
Specified Emergency Shelter / Designated Emergency Evacuation Site
- 緊急避難場所(仮車庫)
Emergency Evacuation Site (Temporary Vehicle Storage Area)
- 市役所(総務課本部)
City Office (General Affairs Department)
- 消防庁(災害対策本部)
Fire Department (Disaster Response Center)
- 土のうステーション
Sandbag Storage Area
- 橋
Bridge
- ライブカメラ
Live camera
- 水位観測所
Water level observatory
- 地下施設
Underground Facility
- 多摩川からの距離
Distance from Tamagawa River



◆浸水しやすい場所の確認を
東京都市ホームページ
で過去の浸水実績を確認
できます。

◆要配慮者利用施設一覧
社会福祉施設、病
院、保育園や学校
等、災害の際に配
慮が必要となる施設
が記載されている施設
の情報を確認でき
ます。

◆家屋倒壊等氾濫想定区域
(早期の立ち退き避難が必要な区域)
氾濫流
氾濫流の直撃により、構造的な木造家屋の倒
壊などをもたらすような氾濫が想定される区域
河岸侵食
氾濫流による河川の侵食を受け、木造・非木造
の建物に隣接する、建物の倒壊・流出などの危
険性がある区域

◆最大浸水深
0.5m未満の区域
0.5m~3.0m未満の区域
3.0m~5.0m未満の区域
5.0m~10.0m未満の区域

◆多摩川洪水時の指定避難所・指定緊急避難場所

番号	名称	所在地	※利用可能階数	エレベーター	※要配慮者利用施設(風水害時)
1	狛江第一小学校	和泉本町1-37-1	体育館、校舎1階以上	○	○
2	狛江第三小学校	猪方1-11-1	校舎3階以上	×	×
3	狛江第五小学校	東野川1-35-13	体育館、校舎1階以上	×	○
4	狛江第六小学校	野井町1-21-1	校舎3階以上	×	○
5	緑野小学校	中和泉3-33-1	校舎2階以上	○	○
6	狛江第一中学校	和泉本町4-3-1	体育館、校舎1階以上	○	○
7	狛江第二中学校	和泉本町2-15-1	体育館、校舎1階以上	○	○
8	狛江第三中学校	猪方2-7-1	校舎3階以上	○	○
9	狛江第四中学校	元和泉1-23-1	体育館、校舎1階以上	○	○
10	上和泉地域センター	東野川4-1-1	体育館、校舎1階以上	○	○
11	中央公民館(たまみらいプラザ)	和泉本町4-7-51	体育館、1階以上	○	○
12	中央公民館(たまみらいプラザ)	和泉本町1-1-5	2階以上	○	○

◆多摩川洪水時の緊急避難場所(駐車場)

番号	名称	所在地	※利用可能階数	エレベーター	※要配慮者利用施設(風水害時)
13	ユニティ和泉店	和泉本町4-6-3	平面駐車場、立体駐車場	-	-
14	ニノ丸ショッピングセンター	岩戸南2-4-3	平面駐車場、立体駐車場	-	-

※利用可能階数は多摩川の洪水浸水想定区域図(想定最大規模)を基に設定

◆想定される浸水深
Depth of Assumed Flood
※想定は、積雪 20cm

▼水深の目安

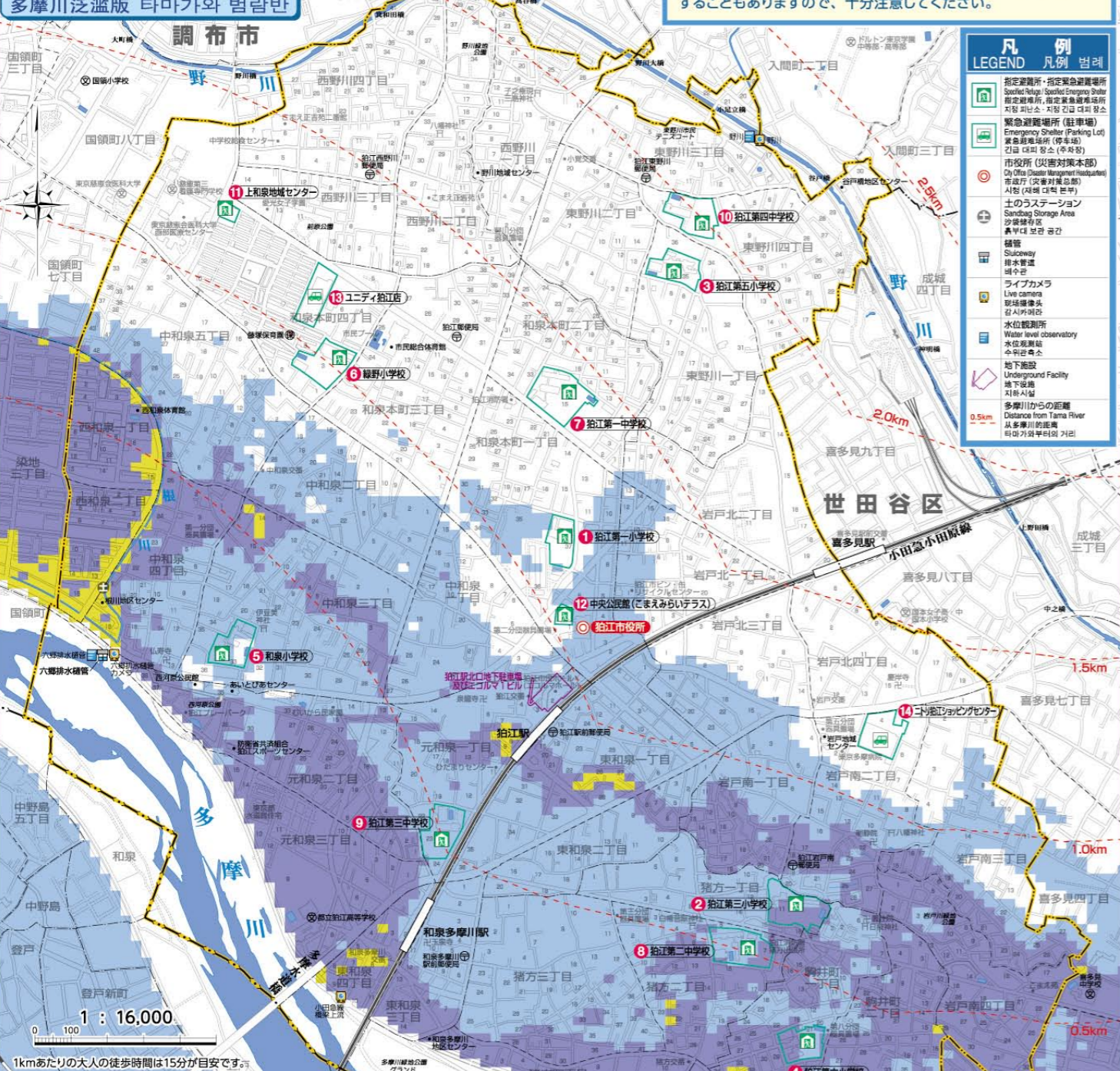
- 2階の天井以上まで浸水する程度 (5.0m)
- 1階の天井から2階の天井まで浸水する程度 (3.0m)
- 1階の天井から2階の天井まで浸水する程度 (1.0m)
- 1階の天井から2階の天井まで浸水する程度 (0.5m)

INUNDATION DURATION SIMULATION AREA MAP

浸水継続時間マップ

浸水持续时间予想区域图 침수 지속 시간 상정 구역도

Flood of Tamagawa 多摩川氾濫版



浸水継続時間図 この地図は、国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所作成の多摩川・浅川・大栗川の洪水浸水想定区域図(浸水継続時間)をもとに、大雨時に多摩川が氾濫した場合の浸水継続時間や避難所などを示したものです。想定した雨量は、多摩川流域での48時間の総雨量が588mmという、水防法の規定に定められた想定しうる最大規模の大雨です。なお、地図に示した浸水想定区域以外でも状況によっては浸水することもありますので、十分注意してください。

- 凡例 LEGEND 凡例 범례
指定避難所・指定緊急避難場所
緊急避難場所(駐車場)
市役所(災害対策本部)
土のうステーション
下水道
ライブカメラ
水位観測所
地下施設

Table with 5 columns: No., Name, Location, Utilization Possibility, and Pet-friendly Shelter. Lists 12 designated evacuation sites and emergency shelters.

Table with 2 columns: Inundation Duration and Color. Legend for inundation duration simulation areas: 0-12h (light blue), 12-24h (medium blue), 24-72h (dark blue), 72-168h (purple), 168-336h (dark purple), 336-672h (black).

QR code and text for 'Easy-to-use evacuation sites confirmation' (浸水しやすい場所の確認を) and 'List of facilities for evacuees' (要配慮者利用施設一覧).

Table with 5 columns: No., Name, Location, Utilization Possibility, and Pet-friendly Shelter. Lists 4 emergency evacuation sites (parking lots) for Tamagawa flood.

Table with 2 columns: Inundation Duration and Color. Legend for inundation duration simulation areas.

QR code and text for 'Easy-to-use evacuation sites confirmation' and 'List of facilities for evacuees'.

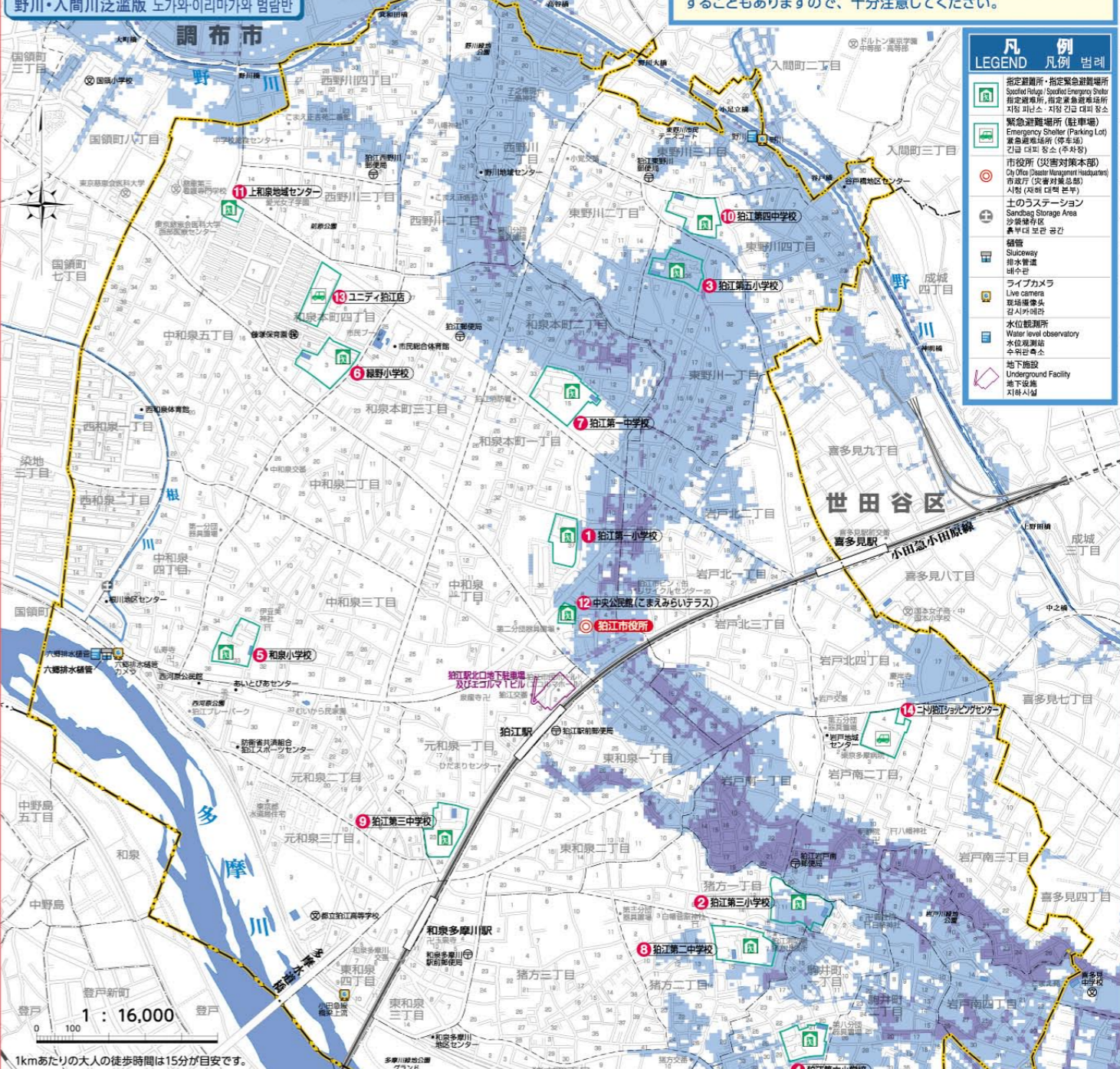
*利用可能施設は多摩川の洪水浸水想定区域(想定最大規模)を基に設定

INUNDATION DURATION SIMULATION AREA MAP

浸水継続時間マップ

浸水持续时间予想区域图 침수 지속 시간 상정 구역도

Flood of Nogawa and Irimagawa 野川・入間川氾濫版



浸水継続時間図 この地図は、東京都作成の多摩川水系野川、仙川、入間川、谷沢川及び丸子川洪水浸水想定区域図(浸水継続時間)をもとに、大雨時に野川が氾濫した場合の浸水継続時間や避難所などを示したものです。*内水氾濫は考慮していません。想定した雨量は、1時間最大雨量153mm、24時間総雨量690mmという、水防法の規定により定められた想定しうる最大規模の降雨です。なお、地図に示した浸水想定区域以外でも状況によっては浸水することもありますので、十分注意してください。

- 凡例 LEGEND 凡例 범례
指定避難所・指定緊急避難場所
緊急避難場所(駐車場)
市役所(災害対策本部)
土のうステーション
下水道
ライブカメラ
水位観測所
地下施設

Table with 5 columns: No., Name, Location, Utilization Possibility, and Pet-friendly Shelter. Lists 12 designated evacuation sites and emergency shelters.

Table with 2 columns: Inundation Duration and Color. Legend for inundation duration simulation areas: 0-12h (light blue), 12-24h (medium blue), 24-72h (dark blue), 72-168h (purple), 168-336h (dark purple), 336-672h (black).

QR code and text for 'Easy-to-use evacuation sites confirmation' (浸水しやすい場所の確認を) and 'List of facilities for evacuees' (要配慮者利用施設一覧).

Table with 5 columns: No., Name, Location, Utilization Possibility, and Pet-friendly Shelter. Lists 4 emergency evacuation sites (parking lots) for Nogawa and Irimagawa flood.

Table with 2 columns: Inundation Duration and Color. Legend for inundation duration simulation areas.

QR code and text for 'Easy-to-use evacuation sites confirmation' and 'List of facilities for evacuees'.

*利用可能施設は野川の洪水浸水想定区域(想定最大規模)を基に設定

Inland water Disaster Prevention Map of Komae City 狛江市内水ハザードマップ

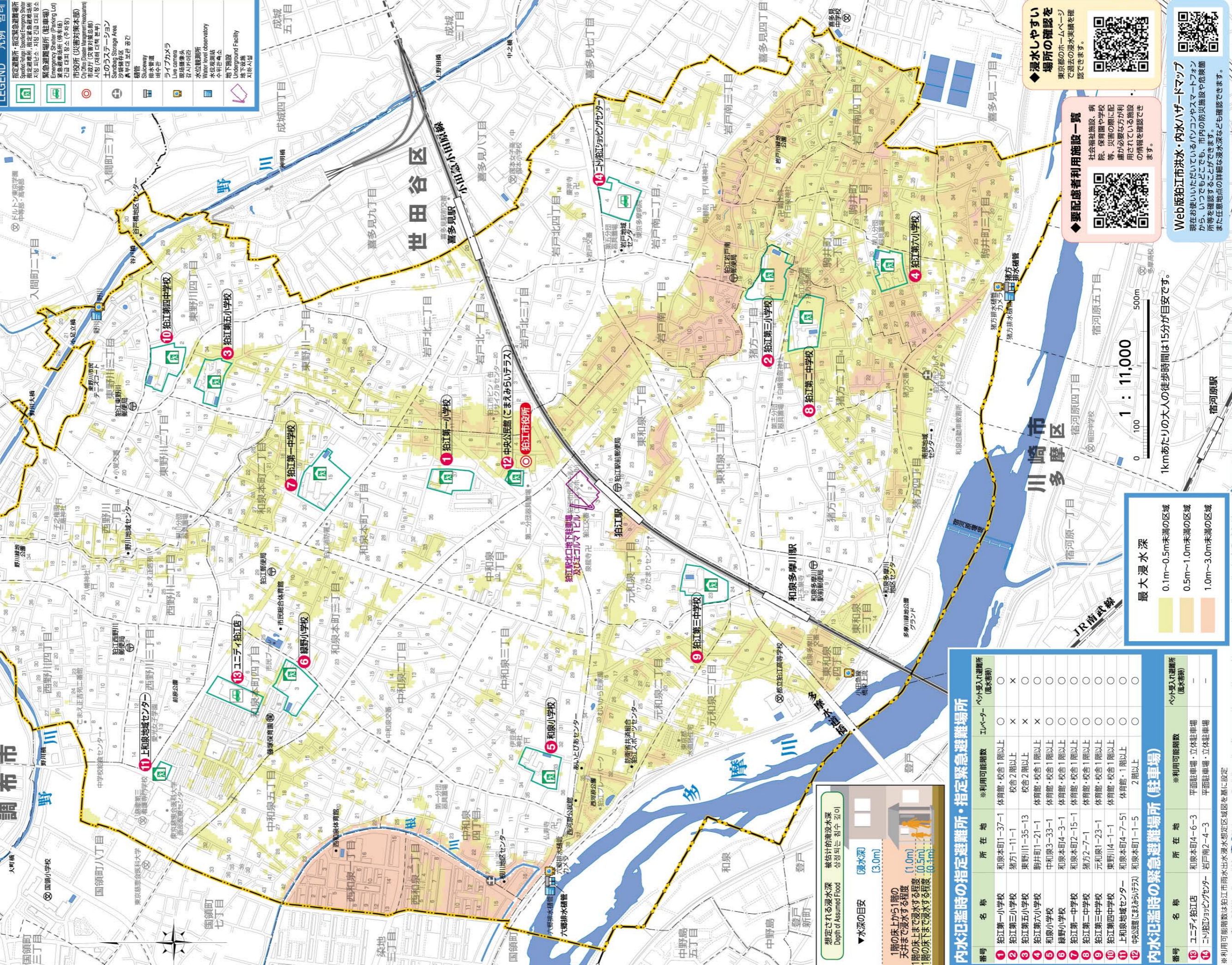
狛江市内涝防災地図 코마에시 내수해저드 지도

この地図は、狛江市作成の狛江市雨水出水浸水想定区域図をもとに、大雨時に内水（下水道などからあふれた水）による浸水が発生した場合の浸水想定区域や浸水深、避難場所等を示したものです。
※河川の氾濫（洪水氾濫）は考慮していません。河川が氾濫したときに浸水が想定される区域を確認する場合は、洪水ハザードマップを参照してください。
※内水ハザードマップは、令和6年度末の下水道施設等の整備状況や地形を考慮し、コンピュータ上でシミュレーションを行い、作成したものです。

想定した雨量は、1時間最大雨量153mm、24時間総雨量690mmという、想定しうる最大規模の降雨です。排水先の河川等の水位については、計画堤防高まで上昇するものとしています。
なお、地図に示した浸水想定区域以外でも状況によっては浸水することもありますので、十分注意してください。
水防法第15条第3項に基づくハザードマップです。

凡例 LEGEND 凡例

- 指定避難場所 (指定避難場所)
- 指定避難場所 (指定避難場所)
- 緊急避難場所 (避難場)
- 緊急避難場所 (避難場)
- 市役所 (災害対策本部)
- 市役所 (災害対策本部)
- 土のうステーション
- 土のうステーション
- 砂袋貯蔵庫
- 砂袋貯蔵庫
- 堤防
- 堤防
- 排水管
- 排水管
- ライブカメラ
- ライブカメラ
- 水位観測所
- 水位観測所
- 地下施設
- 地下施設
- 地下施設
- 地下施設



想定される浸水深 被估計的浸水深
Depth of Assumed Flood 想定되는 침수 깊이

▼水深の目安 (浸水深) (3.0m)

1階の床から1階の天井まで浸水する程度 (1.0m)

1階の床まで浸水する程度 (0.5m)

1階の床下まで浸水する程度 (0.1m)

最大浸水深

0.1m~0.5m未満の区域

0.5m~1.0m未満の区域

1.0m~3.0m未満の区域

1kmあたりの大人の徒歩時間は15分が目安です。

0 100 500m

1 : 11,000

宿河原駅

宿河原一丁目

宿河原二丁目

宿河原三丁目

宿河原四丁目

宿河原五丁目

宿河原六丁目

宿河原七丁目

宿河原八丁目

宿河原九丁目

宿河原十丁目

宿河原十一丁目

宿河原十二丁目

宿河原十三丁目

宿河原十四丁目

宿河原十五丁目

宿河原十六丁目

宿河原十七丁目

宿河原十八丁目

宿河原十九丁目

宿河原二十丁目

宿河原二十一丁目

宿河原二十二丁目

宿河原二十三丁目

宿河原二十四丁目

宿河原二十五丁目

宿河原二十六丁目

宿河原二十七丁目

宿河原二十八丁目

宿河原二十九丁目

宿河原三十丁目

内水氾濫時の指定避難所・指定緊急避難場所

番号	名称	所在地	※利用可能階数	エバナー	ベト入り避難所 (風水害時)
1	狛江第一小学校	和泉本町1-37-1	体育館・校舎1階以上	○	○
2	狛江第三小学校	猪方1-11-1	校舎2階以上	×	×
3	狛江第五小学校	東野川1-35-13	校舎2階以上	×	○
4	狛江第六小学校	駒井町1-21-1	体育館・校舎1階以上	×	○
5	和泉小学校	中和泉3-33-1	体育館・校舎1階以上	○	○
6	緑野小学校	和泉本町4-3-1	体育館・校舎1階以上	○	○
7	狛江第一中学校	和泉本町2-15-1	体育館・校舎1階以上	○	○
8	狛江第二中学校	猪方2-7-1	体育館・校舎1階以上	○	○
9	狛江第三中学校	元和泉1-23-1	体育館・校舎1階以上	○	○
10	狛江第四中学校	東野川4-1-1	体育館・校舎1階以上	○	○
11	上和泉地域センター	和泉本町4-7-51	体育館・1階以上	○	○
12	吹浪(たまきらい)センター	和泉本町1-1-5	2階以上	○	○

内水氾濫時の緊急避難場所 (駐車場)

番号	名称	所在地	※利用可能階数	ベト入り避難所 (風水害時)
13	ユニティ和江店	和泉本町4-6-3	平面駐車場・立体駐車場	-
14	ニノ池ショップセンター	岩戸南2-4-3	平面駐車場・立体駐車場	-

※利用可能階数は狛江市雨水出水浸水想定区域図を基に設定